

一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

Hirosaki Stroke and Rehabilitation Center

年報

第5号

2017.4~2018.3



一般財団法人 黎明郷 理念

質の高い医療・リハビリテーションを実践し、
地域社会の保健医療福祉に貢献します。

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 基本方針

- ◆地域に開かれた病院として脳卒中医療に貢献します。
- ◆活発な地域連携（病病連携・病診連携）を展開します。
- ◆最新かつ最適な医療とリハビリテーションを提供します。
- ◆チーム医療により自立への支援に努めます。
- ◆安全に配慮し、快適な入院環境作りを目指します。
- ◆最新の脳卒中医療情報を発信します。

目 次

巻頭言	院 長 岩田 学	1
施設概要・沿革		2
機構図		3
役員名簿（理事・監事）		4
評議員名簿		5
職員数		6
診療実績（入院患者数等、検査件数）		7
脳ドック・訪問リハビリ実績		9
研修認定施設		10
専門医数		11
治験実績		12
実習受入状況		13
財団事業		14
青森県高次脳機能障害支援拠点機関		14
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会		15
脳卒中市民公開講座		16
黎明郷リハビリテーションケア勉強会		17
学術報告		18
学会発表		18
依頼講演		23
論文等		27
委員会報告		28
医療安全管理委員会		28
院内感染防止対策委員会		32
栄養管理委員会		35
褥瘡対策委員会		38
臨床検査適正化検討委員会		40
薬事審議委員会		42
診療記録管理委員会		44
電子保存システム管理委員会		46
D P C コーディング委員会		48
倫理委員会		49
衛生委員会		51
部署代表者委員会		54
教育研修委員会		56
施設運用委員会		58
広報委員会		60
患者サービス委員会		62
レクリエーション委員会		64
N S T		66
I C T		68
D S T		68
脳ドック ワーキンググループ		73
心臓リハビリテーション ワーキンググループ		75
口腔ケア ワーキンググループ		77
編集後記	広報委員会委員長（内科部長） 目時 典文	78

巻 頭 言

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
院 長 岩 田 学

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第5号（平成29年度）が予定より遅れましたが、発刊の運びとなりました。

平成29年度は、黎明郷の大池弥三郎初代理事長が発起人となって設立された青森県成人・老人リハビリテーション施設協会の設立30周年記念講演会が、平成29年9月29日に開催されました。講演会では、協会顧問である黎明郷の福田道隆名誉理事長からの協会の30年の歩みについての御報告に続き、東北大学の上月正博教授から、超高齢社会・重複障害時代のリハビリテーションについて記念講演をいただきました。青森県のリハビリテーションの歴史を振り返り、これからのリハビリテーションの在り方を学ぶ貴重な機会となりました。

さて弘前脳卒中・リハビリテーションセンターとしてスタートして7年目の平成29年度は、前年度に病床稼働率の低迷で非常に厳しい運営を強いられたことから、年度当初より緊張感を持って病院運営にあたりました。地域医療構想が進行している現状では、他医療圏域からの紹介患者の増加が見込めないため、救急紹介患者を断らずに、脳卒中の類縁疾患も広く受け入れ、回復期リハ病棟の退院調整を積極的に行いました。その結果、平成28年度に急激に稼働率が低下した初夏から秋にかけて一定の稼働率が維持でき、落ち込みが激しかった回復期リハ病棟の患者数も、平成27年度のレベルまで戻すことができました。しかし年度末の平成30年3月に診療報酬の改定通知があり、一般病棟および回復期リハ病棟の入院料が細分化されました。また回復期リハ病棟では、充実加算が廃止され実績指数が引き上げられました。病院運営においては、今後も厳しい状況が続くことが予測されます。

検査件数、脳ドック受診者数、訪問リハビリ件数などその他の診療実績は概ね前年通りに推移しております。脳血管造影検査は前年度に比較し大幅に件数が増加し、頸動脈ステント留置術も着実に行われており、脳血栓回収術の実施体制も整いつつあります。また青森県から委託されている高次脳機能障害の支援拠点機関としての関連事業や市民公開講座、黎明郷リハビリテーションケア勉強会開催などの社会活動も継続されております。

年報に記載されている事項、特に数値は現在のセンターの診療や情報発信の現況を示す指標であり、問題点の分析と改善に向けての貴重な資料となるものであります。今後に向けて、十分に吟味し活用されることを願っております。

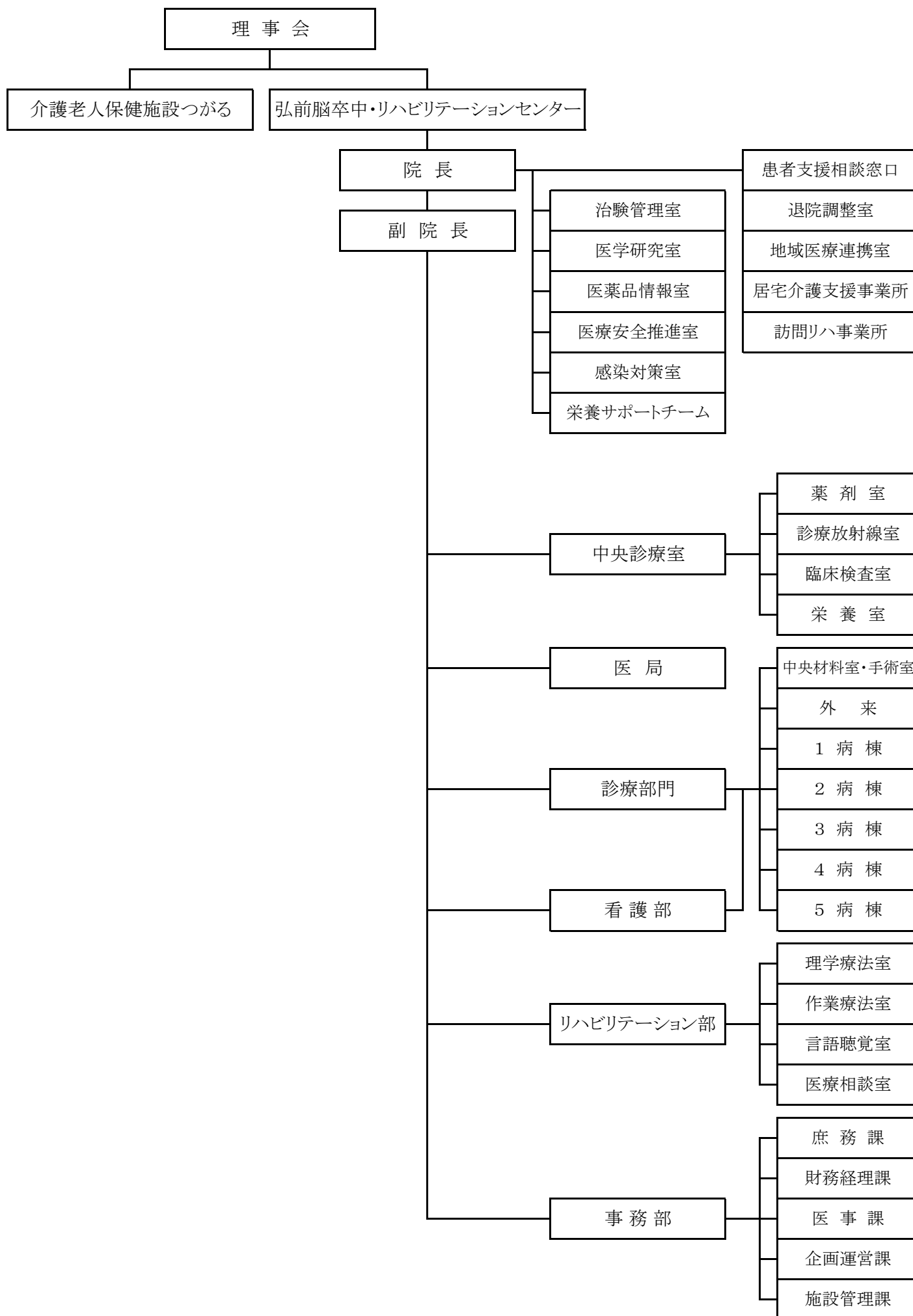
年報作成を担当した広報委員会の目時典文委員長をはじめ、各委員諸氏の労に敬意を表したいと存じます。

施設概要

年 月	内 容
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145 床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4階 敷地面積 19,872.80 m² 建築延面積 11,414.94 m² 一般病棟 35 床 回復期リハビリテーション病棟 110 床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科
平成23年 4月	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター開設（名称変更）（248 床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4階 敷地面積 25,828.95 m² 建築延面積 18,579.55 m² 一般病棟 79 床 回復期リハビリテーション病棟 169 床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科、歯科
平成25年 4月	診療科目変更 脳・血管内科、循環器内科、内科、脳神経外科、リハビリテーション科、神経内科、放射線科、歯科

沿 革

年 月	内 容
昭和41年 4月	青森県知事より財団法人黎明郷の設立認可
昭和41年 7月	碓ヶ関村より診療所の委託を受け診療を開始（10 床）
昭和42年 4月	黎明郷リハビリテーション病院開設（60 床、昭和 57 年 7 月 248 床）
昭和60年 9月	黎明郷リハビリテーション病院に高血圧センター併設
平成15年 4月	黎明郷リハビリテーション病院に介護老人保健施設つがるを併設
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145 床）内科・神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・整形外科
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院（103 床）となる
平成23年 4月	弘前脳卒中センターと黎明郷リハビリテーションを統合し、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターを開設（248 床） 開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院は廃止 碓ヶ関診療所（無床）を開設
平成24年 3月	碓ヶ関診療所廃止
平成25年 4月	一般財団法人へ移行



役員名簿

平成30年3月31日現在

氏 名	職業又は勤務先	区 分
保嶋 実 (理事)	一般財団法人 黎明郷	理事長
奥村 謙 (理事)	済生会熊本病院心臓血管センター	循環器内科 最高技術顧問(医療)
富田 泰史 (理事)	弘前大学大学院医学研究科	循環器腎臓内科学講座 教授(医療)
長内 智宏 (理事)	弘前大学大学院保健学研究科	看護学領域 教授(医療)
玉田 友一 (理事)	玉田内科医院 院長(秀峰会代表)	(医療)
長尾 忠行 (理事)	老健つがる設置地域代表	平川市長(行政)
山田 年伸 (理事)	青森県町村会代表	大鰐町長(行政)
石川 啓太郎 (理事)	(株)青森銀行取締役弘前地区統括	(経営)
三浦 康久 (理事)	元青森県健康福祉部長	(行政)
佐藤 陽子 (理事)	元青森県環境生活部長	(行政)
小林 正志 (理事)	一般財団法人 黎明郷	事務局長
鳴海 溜喜子 (監事)	税理士	
白鳥 元生 (監事)	(株)青森銀行弘前支店長	

評議員名簿

平成30年3月31日現在

氏 名	職業又は勤務先	区 分
吉岡 利忠	弘前学院大学 学長	教育
込山 稔	特別養護老人ホーム 弘前大清水ホーム 元施設長	福祉
梅村 芳文	梅村医院 院長	医療（弘前市医師会）
畑山 亨	畑山医院 院長	地域医療
葛西 聡	あすなろ法律事務所 弁護士	学識経験者（法律）
奈良岡 勇造	城東地区	地域代表（福祉）
柳田 光祥	豊田地区町会連合会 会長	地域代表
横山 篤	介護老人保健施設つがる 施設長	医療（介護）
松本 茂男	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（リハビリ）
鎌田 孝篤	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（内科）
岩田 学	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（治験・リハビリ）
樋口 三枝子	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護部長	看護

職員数

※過去3か年分について掲載

職 種	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
医 師	14	14	17
薬剤師	8	8	8
診療放射線技師	6	6	6
臨床検査技師	7	7	7
理学療法士	56	59	59
作業療法士	59	57	58
言語聴覚士	9	9	10
医療相談員	10	10	9
医療部助手	1	1	1
管理栄養士	4	4	4
看護師	169	164	169
准看護師	17	16	15
看護助手	32	35	43
歯科衛生士	1	2	2
介護支援専門員	2	2	2
事務員	35	40	40
合 計	430	434	450

各年4月1日現在

診療実績 入院患者数

※過去3か年分について掲載

		H27年度	H28年度	H29年度
延患者数（人）		80, 537	74, 153	81, 464
病床数		248	248	248
病床稼働率（％）		88. 7	81. 9	90. 0
平均在院日数（日）	一般病棟	17. 7	16. 7	17. 8
	回復期病棟	77. 8	81. 9	88. 4
新患受入件数（件）	a. 救急車	648	645	648
		(30. 6%)	(31. 1%)	(30%)
	b. 直接来院	1, 469	1, 428	1, 512
		(69. 4%)	(68. 9%)	(70%)
※ c. 救急車受入のうち入院（件）		536	500	518
(c / a)		(82. 7%)	(77. 5%)	(79. 9%)
一般病棟指標				
在宅復帰率		79. 3%	81. 0%	82. 9%
医療・看護必要度 重症者割合		18. 6%	28. 0%	30. 0%
回復期リハビリテーション病棟指標				
在宅復帰率		82. 8%	78. 7%	80. 2%
新規入棟患者重症者割合〔A項目〕		17. 7%	22. 5%	24. 4%
新規入棟患者重症者割合〔B項目〕		46. 9%	45. 7%	54. 9%
重症患者回復割合（退棟時）		53. 9%	45. 9%	49. 8%
回復期病棟延患者数（人）		56, 370	51, 666	56, 880
実施リハ単位数		359, 722	340, 269	358, 340
一日一人当たりリハ提供単位数		6. 38	6. 59	6. 30
脳卒中地域連携パス適用患者数（H25年9月～）		11	0	0

診療実績 検査・手術件数

※過去3か年分について掲載

		H27年度	H28年度	H29年度
MR I		4,392	4,344	4,449
C T		4,048	3,895	3,911
超音波	頰動脈	1,321	1,220	1,263
	心臓	911	898	988
	経食道心臓	446	447	487
	その他	19	5	36
	合計	2,697	2,570	2,774
A B I（脈波）		899	835	882
ホルター心電図		949	905	918
血管造影	脳血管造影	3	38	62
	頭頸部血管造影	12	1	—
	大動脈造影	—	1	—
	心臓カテーテル検査	4	15	16
	下肢血管造影	1	1	3
	合計	20	56	81
透視下検査	嚥下造影	53	47	67
	上部消化管造影	—	—	—
	透視のみ	1	6	1
	合計	54	53	68
内視鏡	内視鏡下胃瘻造設術	—	—	—
	胃瘻交換	35	27	15
	胃・十二指腸ファイバースコピー	7	10	19
	食道ファイバースコピー	1	—	1
	合計	43	37	35
血栓溶解療法（t-P A）		32	29	27
頰動脈ステント留置術		2	7	6
経皮的脳血管形成術		—	1	3
経皮的脳血栓回収術		—	1	1
ペースメーカー移植・交換術		2	—	4
気管切開術		0	1	2

脳ドック実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度	7	2	16	17	8	15	16	13	13	6	7	5	125
28年度	1	4	12	17	15	11	9	10	3	7	8	3	100
29年度	4	0	11	14	15	10	13	17	12	10	1	1	108

※過去3か年分について掲載

訪問リハビリ実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度	171	177	220	241	202	183	203	180	186	178	193	205	2339
28年度	186	184	219	205	216	212	181	183	178	181	169	196	2310
29年度	183	193	215	199	220	197	222	208	187	189	198	225	2436

※過去3か年分について掲載

研修認定施設

	認 定 学 会	認 定 期 間
1	日本脳卒中学会認定研修教育病院	2013. 4. 1～2014. 12. 31 2015. 1. 1～2016. 12. 31 2017. 1. 1～2019. 12. 31
2	日本リハビリテーション医学会認定研修施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2022. 3. 31
3	日本静脈経腸栄養学会N S T稼働認定施設	2014. 4. 1～2019. 3. 31
4	日本高血圧学会専門医認定施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2022. 3. 31
5	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設	2013. 4. 1～2015. 3. 31 2015. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2019. 3. 31

専門医数

単位：人

資 格	計
日本高血圧学会認定専門医	1
日本循環器学会認定循環器専門医	5
日本腎臓学会腎臓専門医	1
日本内科学会総合内科専門医	4
日本臨床検査医学会臨床検査専門医	1
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医	6
日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医	1
日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医	2
合 計	21

平成30年3月31日現在

治験実績

年度	内 容
平成 29 年度 1 件	DU-176b 第Ⅲ相臨床試験（非弁膜症性心房細動） 既存の経口抗凝固薬の投与が困難な 80 歳以上の非弁膜症性心房細動患者を対象とした多施設共同無作為化プラセボ対照二重盲検比較試験

実習受入状況

※過去3か年分について掲載

平成27年度	医局	看護部	リハビリテーション部				栄養室	事務	全体
			P T	O T	S T	MSW			
延件数 (単位：件)	4	14	17	11	5	0	0	0	51
延人数 (単位：人)	132	1073	663	347	260	0	0	0	2475

平成28年度	医局	看護部	リハビリテーション部				栄養室	事務	全体
			P T	O T	S T	MSW			
延件数 (単位：件)	4	17	20	13	6	2	0	0	62
延人数 (単位：人)	114	974	439	500	181	52	0	0	2260

平成29年度	医局	看護部	リハビリテーション部				栄養室	事務	全体
			P T	O T	S T	MSW			
延件数 (単位：件)	4	15	13	12	4	1	1	1	51
延人数 (単位：人)	122	905	457	537	197	23	12	36	2289

財団事業(青森県委託事業)
 青森県高次脳機能障害支援拠点機関
 平成29年度事業活動報告

1. 青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会

開催日時：平成29年9月2日（土）14：00～16：30

開催場所：アピオあおもり 2階

参加者：110名

講演

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

副院長 松本 茂男 先生

『患者から生活者へのライフスタイルの変化を支える

～高次脳機能障害を抱えて地域の生活者として生きる～』

講師：千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援アドバイザー

聖隷三方原病院 高次脳機能障害支援アドバイザー

富山県高次脳機能障害支援センター アドバイザー 太田 令子 先生

※拠点機関支援コーディネーターによる医療福祉相談を同時開催

2. 青森県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業検討委員会

開催日時：平成29年7月17日（火）17：30

開催場所：青森国際ホテル 2階 高砂の間

出席者：14名

案件

1. 平成28年度事業報告について

2. 平成29年度事業計画について

3. 相談件数

相談件数	相談者		
	本人	家族	その他
	14	40	54
就労支援	1	4	5
診断・治療	9	23	42
支援体制・家族会	1	8	5
その他	3	5	2

財団事業(事務局)
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会
平成29年度事業活動報告

青森県成人・老人リハビリテーション施設協会 設立30周年記念講演会

開催日時：平成29年9月29日(金) 17:30～19:00

開催場所：青森国際ホテル 2階 春秋の間

参加者：病院、老健、特養等職員 71名

報告

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

院長 保嶋 実 先生

『30年の歩み』

講師：青森県成人・老人リハビリテーション施設協会

顧問 福田 道隆 先生

記念講演

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

院長 保嶋 実 先生

『超高齢社会・重複障害時代のリハビリテーション：不易流行の運営とは』

講師：東北大学大学院医学系研究科 障害科学専攻 機能医科学講座 内部障害学分野

教授 上月 正博 先生

財団事業(主催)
脳卒中市民公開講座
平成29年度事業活動報告

「脳卒中市民公開講座2017」

開催日時：平成29年10月1日（日） 14：00～16：00

開催場所：弘前市民文化交流館 大ホール（ヒロロ4F）

参加者：91名

テーマ『ためになる！「あたらない」ためのお話し』

1. 講演

講演 1

『脳卒中予防、あなたと家族を守るために』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
内科副部長 萩井 譲士 先生

講演 2

『学会認定脳ドックとは』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
脳神経外科部長 内沢 隆充 先生

講演 3

『何(なに)食(け)ばあだねんだべの？』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
内科部長 佐々木 都子 先生

2. パネルディスカッション

3. その他

- ・病院スタッフによる相談コーナーの設置
- ・脳卒中疑似体験、ABI検査コーナーの設置

財団事業(主催)

黎明郷リハビリテーションケア勉強会

平成29年度事業活動報告

1. 第9回 黎明郷リハビリテーションケア勉強会

テ ー マ：『嚥下障害へのアプローチの実際』

開催日時：平成29年7月14日（金） 18：00～19：30

開催場所：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 2F 大会議室

参 加 者：病院、老健、特養等職員 33名

(1) 講 義『嚥下障害と食物の調整』

(2) ワークショップ

- ・評価実習と増粘剤使用方法実習、嚥下食試食
- ・事例検討（食物形態の調整方法）
- ・検討結果のまとめ

指導担当：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
リハビリテーションスタッフ

2. 第10回 黎明郷リハビリテーションケア勉強会

テ ー マ：『嚥下障害に対する介入の実際』

開催日時：平成29年10月27日（金） 18：00～19：00

開催場所：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 2F 大会議室

参 加 者：病院、老健、特養等職員 17名

(1) 講 義『嚥下障害と食事の実際』

(2) 演 習：嚥下体操、食事介助（適切な姿勢・介助方法）

指導担当：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
リハビリテーションスタッフ

学術報告－全国学会

年 月 日		学会・研究会名	演 題	主演者
1	平成 29 年 4 月 22 日 ～ 4 月 23 日	第 14 回日本口腔ケア学会 総合・学術大会(宜野湾市)	脳卒中回復期患者の口腔衛生評価法確立に向けた基礎検討	清水 瞳
2	平成 29 年 5 月 12 日 ～ 5 月 14 日	第 52 回日本理学療法学会 大会(千葉市)	機能制限モデルにおける各種歩行戦略の力学的エネルギーの回復率に関する研究	樋口 朝美
3	平成 29 年 5 月 18 日 ～ 5 月 20 日	第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会(名古屋市)	糖尿病注射製剤に関するスタッフアンケートより見えたこと	高瀬 公子
4	平成 29 年 5 月 20 日 ～ 5 月 21 日	第 30 回青森県作業療法学会(十和田市)	退院後の生活行為における目標設定に向けた関わり	目黒 佑樹
5	平成 29 年 5 月 20 日 ～ 5 月 21 日	第 30 回青森県作業療法学会(十和田市)	注意及び記憶が低下した症例に対するスケジュール管理を目的とした介入	吉水 尚子
6	平成 29 年 6 月 2 日 ～ 6 月 3 日	第 4 回日本心血管脳卒中学会学術集会(福岡市)	冠動脈造影検査および心血管インターベンションに起因した虚血性脳卒中の予後	齋藤 新
7	平成 29 年 6 月 24 日 ～ 6 月 25 日	第 27 回東北作業療法学会(仙台市)	患者の作業療法プログラムに対する意欲～退院後、実生活で行うつもりのある活動における違い～	三浦 琴
8	平成 29 年 6 月 24 日 ～ 6 月 25 日	第 27 回東北作業療法学会(仙台市)	前開き上着の着衣動作獲得を容易にした視覚的注意並びに着衣動作法変更の効果	柏崎 勉
9	平成 29 年 9 月 14 日 ～ 9 月 15 日	第 19 回日本褥瘡学会学術集会(盛岡市)	褥瘡委員会及びNSTの介入により褥瘡の改善が見られた一例	藤田 佳子
10	平成 29 年 9 月 15 日 ～ 9 月 16 日	第 23 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会(千葉市)	青森県の嚥下調整食の実態～嚥下障害に関する研修会でのアンケート結果から～	宮川 具子
11	平成 29 年 9 月 17 日	簡易懸濁法研究会第 11 回 総合・研修会(東京都品川区)	脳卒中急性期における嚥下障害の割合と服薬支援システム	鳥谷部 翔
12	平成 29 年 9 月 22 日 ～ 9 月 24 日	第 51 回日本作業療法学会(東京都千代田区)	リストバンド型活動量計を用いた脳卒中患者の睡眠評価の試み	今井 寛人
13	平成 29 年 9 月 22 日 ～ 9 月 24 日	第 51 回日本作業療法学会(東京都千代田区)	軽度脳卒中患者における抑うつ症状が活動量に与える影響	齋藤 峻
14	平成 29 年 10 月 19 日 ～ 10 月 21 日	リハビリテーション・ケア合同研究大会久留米 2017(久留米市)	高次脳機能障害に対するスタッフの意識調査	高橋 友紀子
15	平成 29 年 10 月 19 日 ～ 10 月 21 日	リハビリテーション・ケア合同研究大会久留米 2017(久留米市)	新人指導についての意識調査	岩谷 奈津子

16	平成 29 年 10 月 19 日 ～10 月 21 日	リハビリテーション・ケア合同 研究大会久留米 2017(久留 米市)	「仕事」と「職場環境」についての意 識調査	相馬 千尋
17	平成 29 年 10 月 19 日 ～10 月 21 日	リハビリテーション・ケア合同 研究大会久留米 2017(久留 米市)	当院における転倒・転落の発生状 況とその原因についての検討	久森 名緒子
18	平成 29 年 10 月 19 日 ～10 月 21 日	リハビリテーション・ケア合同 研究大会久留米 2017(久留 米市)	重度小脳出血開頭血腫除去術後 患者の退院までの介入についての一考察	花岡 伸明
19	平成 29 年 10 月 19 日 ～10 月 21 日	リハビリテーション・ケア合同 研究大会久留米 2017(久留 米市)	患者の自己決定を尊重し、ケース ワークの重要性を再確認した症例	蝦名 佑夏子
20	平成 29 年 10 月 19 日 ～10 月 21 日	リハビリテーション・ケア合同 研究大会久留米 2017(久留 米市)	意向に沿った退院支援とは～患者 と家族の意向が相違するケースに ついて～	長尾 さくら
21	平成 29 年 10 月 28 日 ～10 月 29 日	第 1 回日本リハビリテーショ ン医学会秋季学術集会(大 阪市)	補足運動野の損傷に起因する下 肢の随意運動障害を呈した症例	木村 憧
22	平成 29 年 11 月 18 日 ～11 月 19 日	第 35 回東北理学療法学術 大会(盛岡市)	健常者における加速度計を利用し た短下肢装具の歩行特性の検討	小田桐 伶
23	平成 29 年 11 月 18 日 ～11 月 19 日	第 35 回東北理学療法学術 大会(盛岡市)	Fugl-Meyer assessment scale の 下肢深部覚検査 4 項目とパフォー マンステスト、FIM 運動項目との関 係	荒谷 光太郎
24	平成 29 年 11 月 23 日 ～11 月 25 日	第 33 回 NPO 法人日本脳神 経血管内治療学会学術総 会(東京都品川区)	脳血管造影検査後の止血管理に おける看護の取り組み	工藤 晃
25	平成 30 年 2 月 2 日 ～ 2 月 3 日	回復期リハビリテーション病 棟協会第 31 回研究大会 in 岩手(盛岡市)	脳血管疾患患者の T 字杖歩行パ ターンの決定因子について	山本 賢雅
26	平成 30 年 2 月 2 日 ～ 2 月 3 日	回復期リハビリテーション病 棟協会第 31 回研究大会 in 岩手(盛岡市)	脳卒中片麻痺患者の農業への復 職～具体的な作業体験が自信に つながった 1 例～	住吉 佳奈子
27	平成 30 年 2 月 2 日 ～ 2 月 3 日	回復期リハビリテーション病 棟協会第 31 回研究大会 in 岩手(盛岡市)	転倒し橈尺骨遠位端骨折を受傷し た脳卒中片麻痺患者の退院支援	奈良 早紀子
28	平成 30 年 2 月 2 日 ～ 2 月 3 日	回復期リハビリテーション病 棟協会第 31 回研究大会 in 岩手(盛岡市)	頭部外傷後に高次脳機能障害を 呈した患者の行動と家族の理解	齋藤 風太
29	平成 30 年 2 月 22 日 ～ 2 月 23 日	第 33 回日本静脈経腸栄養 学会学術集会(横浜市)	当院に於ける高濃度経腸栄養剤メ イバランス 2.0®の使用経験	鳴海 悦子

30	平成 30 年 2 月 23 日 ～ 2 月 24 日	第 33 回日本環境感染学会 総会・学術集会(東京都品 川区)	SBT/ABPC 投与量と肝機能検査 値の関連について	倉内 寿孝
31	平成 30 年 2 月 23 日 ～ 2 月 24 日	第 33 回日本環境感染学会 総会・学術集会(東京都品 川区)	抗菌薬適正使用に向けた取り組み	花田 和大
32	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	TIA の CT 所見	内沢 隆充
33	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	抗凝固療法中に発症した心原性 脳塞栓症の特徴と重症度:ワーフ ァリンと DOAC の違い	萩井 譲士
34	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	脳卒中における原発性アルドステ ロン症(PA)スクリーニング陽性患 者の特徴	目時 典文
35	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	心房細動に起因する心原性脳塞 栓症患者の加速的高齢化	目時 典文
36	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	冠動脈造影検査および心血管イン ターベンションに起因した虚血性 脳卒中の予後	齋藤 新
37	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	重症橋出血の気道閉塞における 適応補助喚起(ASV)奏効例	藤田 彩香
38	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	Trousseau 症候群の診断に至っ た、リバーロキサバン無効の再発 性脳梗塞	藤田 彩香
39	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	青森県津軽地域における直接経口 抗凝固薬処方推移と心原性脳塞 栓症発症数に関する検討	成田 憲紀
40	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	右半身麻痺にて発症し、抗 NMDA 受容体脳炎の診断へ至った若年 性女性の一例	工藤 奈津美
41	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	D ダイマー値による塞栓性脳梗塞 とトルソー症候群に伴う脳梗塞の 鑑別	對馬 迪子
42	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	抗凝固療法患者における服薬管 理とアドヒアランスの関連	鳥谷部 翔
43	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	心房細動患者への DOAC 予防投 与は患者本人への経済負担を軽 減するか?	齋藤 輝之
44	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	脳血管造影検査後の出血管理の 調査～止血管理の不安に対する 看護師の取り組みと今後の課題～	三上 小夜香

45	平成 30 年 3 月 15 日 ～ 3 月 18 日	第 43 回日本脳卒中学会学 術集会(福岡市)	脳卒中意識障害患者の肺炎の特 徴	伴 美紗貴
----	--------------------------------	----------------------------	---------------------	-------

学術報告－地方学会

年 月 日		学会・研究会名	演 題	主演者
1	平成 29 年 6 月 10 日 ～ 6 月 11 日	日本病院薬剤師会東北ブロック第 7 回学術大会(弘前市)	脳卒中急性期病棟における処方箋の代行入力と代行入力に関するプロトコールに基づく薬物治療管理 PBPM	鳥谷部 翔
2	平成 29 年 6 月 10 日 ～ 6 月 11 日	日本病院薬剤師会東北ブロック第 7 回学術大会(弘前市)	スルバクタム/アンピシリンによる肝機能検査値異常の調査	倉内 寿孝
3	平成 29 年 6 月 10 日 ～ 6 月 11 日	日本病院薬剤師会東北ブロック第 7 回学術大会(弘前市)	糖尿病注射製剤に関するスタッフアンケートより見えたこと	高瀬 公子
4	平成 29 年 6 月 10 日 ～ 6 月 11 日	日本病院薬剤師会東北ブロック第 7 回学術大会(弘前市)	当院における半夏朴湯の投与経験と課題	阿部 早苗
5	平成 29 年 6 月 10 日 ～ 6 月 11 日	日本病院薬剤師会東北ブロック第 7 回学術大会(弘前市)	当院における Clostridium difficile 感染症と抗菌薬の使用の関連性	花田 和大
6	平成 29 年 6 月 10 日 ～ 6 月 11 日	日本病院薬剤師会東北ブロック第 7 回学術大会(弘前市)	当院における疑義照会の評価	石田 瑞穂
7	平成 29 年 8 月 26 日	第 9 回 J 感染制御ネットワークフォーラム(仙台市)	病院給食委託業者の衛生管理に対するベストプラクティスの作成	藤田 佳子
8	平成 29 年 10 月 29 日	青森県病院薬剤師会平成 29 年度会員研究発表会並びに学術講演会(青森市)	当院におけるリナクロチドの有用性と安全性の検討	石田 瑞穂
9	平成 29 年 10 月 29 日	青森県病院薬剤師会平成 29 年度会員研究発表会並びに学術講演会(青森市)	注射抗菌薬適正使用に向けた新規処方時全例介入による感染症データベース作成～第 2 報～	花田 和大

学術報告－依頼講演

年 月 日		学会・研究会名	演 題	演 者
1	平成 29 年 4 月 20 日	社会福祉法人鶴済会介護部 対象研修会(社会福祉法人 鶴住会)(板柳町)	脳卒中のお話～脳卒中の特徴を 知ってケアに活かそう～	萩井 譲士
2	平成 29 年 5 月 18 日	心原性脳塞栓症予防学術講 演会(バイエル薬品)(弘前 市)	当院における心原性脳塞栓症の 最近の動向	萩井 譲士
3	平成 29 年 5 月 26 日	心原性脳塞栓症予防学術講 演会(バイエル薬品)(弘前 市)	心原性脳塞栓症の最近の動向	萩井 譲士
4	平成 29 年 5 月 27 日	第 15 回青森県脳卒中フォー ーラム(青森県脳卒中フォー ーラム、田辺三菱製薬)(青森 市)	症脳梗塞で発症した CADASIL の 1 例	萩井 譲士
5	平成 29 年 5 月 27 日	第 15 回青森県脳卒中フォー ーラム(青森県脳卒中フォー ーラム、田辺三菱製薬)(青森 市)	DOAC 時代における心房細動抗 凝固療法の変遷～津軽地域にお ける国保データベースを用いた観 察研究～	成田 憲紀
6	平成 29 年 5 月 27 日	第 15 回青森県脳卒中フォー ーラム(青森県脳卒中フォー ーラム、田辺三菱製薬)(青森 市)	脳卒中発症 2 週目で回復期リハ 病棟退院時の転帰先を推定でき るか?～決定木分析を用いて～	三浦 康彦
7	平成 29 年 5 月 27 日	第 6 回青森県病院薬剤師会 療養病床研修会(青森県病 院薬剤師会、大塚製薬)(弘 前市)	抗てんかん薬注射剤の使用状況 と配合変化・嚥下評価について	鳥谷部 翔
8	平成 29 年 6 月 13 日	抗血栓薬を脳・消化管から熟 考する会 in 西北五(西北五 医師会、アストラゼネカ、第 一三共)(五所川原市)	抗血栓薬の多剤併用が必要な訳 とその問題点	目時 典文
9	平成 29 年 6 月 14 日	障害者就業・生活支援センタ ー月見野平成 29 年度第 1 回事業連絡会議(障害者就 業・生活支援センター月見 野)(五所川原市)	高次脳機能障害の相談支援につ いて	土岐 敏子
10	平成 29 年 6 月 15 日	Aomori Heart Rhythm Seminar～不整脈診療の現 在、そして未来を考える～ (バイエル薬品)(青森市)	心原性脳塞栓症の最近の動向～ 潜在的脳梗塞と塞栓源不明脳塞 栓症を含めて～	萩井 譲士

11	平成 29 年 6 月 23 日	平成 29 年度脳卒中救急医療を考える会 (弘前市)	兵庫医科大学脳神経外科で学んで来たこと～急性期脳梗塞再開通治療の最前線～	齋藤 新
12	平成 29 年 6 月 23 日	平成 29 年度脳卒中救急医療を考える会 (弘前市)	平成 28 年度の救急搬送状況	工藤 晃
13	平成 29 年 7 月 26 日	第 46 回弘前地区 CDE の会 研修会(弘前地区 CDE の会、ノボルディスクファーマー、日本イーライリリー、サノフィ)(弘前市)	脳卒中センターにおける糖尿病サポートチーム(DST)活動の開始	高瀬 公子
14	平成 29 年 7 月 30 日	東北メディカル学院(青森県作業療法士会)(五戸町)	生活行為向上リハビリテーションについて	金谷 圭子
15	平成 29 年 8 月 10 日	高齢心房細動患者における抗凝固療法について考える会(第一三共)(弘前市)	ELDERCARE-AF 試験の概要について	目時 典文
16	平成 29 年 8 月 26 日	平成 29 年青森県言語聴覚士会弘前市支部摂食嚥下障害研修会(青森県言語聴覚士会)(弘前市)	みんなで考えよう、嚥下障害	福山 美佳
17	平成 29 年 10 月 1 日	脳卒中市民公開講座 2017 (弘前市)	脳卒中予防、あなたと家族を守るために	萩井 護士
18	平成 29 年 10 月 1 日	脳卒中市民公開講座 2017 (弘前市)	学会認定脳ドックとは	内沢 隆充
19	平成 29 年 10 月 1 日	脳卒中市民公開講座 2017 (弘前市)	何食えば、あだねんだべの？	佐々木 都子
20	平成 29 年 10 月 29 日	平成 29 年度青森県生活行為向上リハビリテーション推進人材育成研修会(青森県作業療法士会、青森県理学療法士会、青森県言語聴覚士会)(弘前市)	生活行為向上リハビリテーションについて	金谷 圭子
21	平成 29 年 11 月 17 日	第 29 回弘前脳疾患臨床セミナー(第一三共)(弘前市)	脳卒中と DOAC	萩井 護士
22	平成 29 年 11 月 18 日	第 10 回青森県 NST 研究会(大塚製薬)(青森市)	薬剤師と多職種が連携する脳卒中嚥下障害者への薬剤栄養業務	鳥谷部 翔

23	平成 29 年 11 月 19 日	平成 29 年度青森県生活行為向上リハビリテーション推進人材育成研修会(青森県作業療法士会、青森県理学療法士会、青森県言語聴覚士会)(青森市)	生活行為向上リハビリテーションについて	今井 寛人
24	平成 29 年 11 月 22 日	2017 年度浪岡地区医療懇話会(浪岡地区医療懇話会、第一三共)(弘前市)	DOAC 処方脳卒中患者における嚥下障害の頻度と簡易懸濁法の有用性	鳥谷部 翔
25	平成 29 年 11 月 26 日	平成 29 年度青森県生活行為向上リハビリテーション推進人材育成研修会(青森県作業療法士会、青森県理学療法士会、青森県言語聴覚士会)(五所川原市)	生活行為向上リハビリテーションについて	今井 寛人
26	平成 29 年 12 月 2 日	アプリコット感染制御セミナー 2017(杏林製薬)(弘前市)	長期入院患者における感染対策	毛利 暢子
27	平成 29 年 12 月 7 日	第 22 回「臨床を語る会」(弘前市医師会)(弘前市)	最後まで元気に暮らすために～超高齢者心房細動と脳梗塞の現状と課題～	目時 典文
28	平成 29 年 12 月 9 日	第 9 回公開高血圧講座(日本高血圧協会青森県支部、黎明郷、弘前大学大学院保健学研究科)(弘前市)	脳卒中にならないための食事とは	佐々木 都子
29	平成 29 年 12 月 10 日	平成 29 年度青森県生活行為向上リハビリテーション推進人材育成研修会(青森県作業療法士会、青森県理学療法士会、青森県言語聴覚士会)(十和田市)	生活行為向上リハビリテーションについて	金谷 圭子
30	平成 30 年 2 月 2 日	高齢者認知症のトータルケアセミナー～認知症と合併症を考える～(第一三共)(弘前市)	認知症と脳卒中	目時 典文
31	平成 30 年 2 月 23 日	むつ市・下北郡抗血栓治療セミナー(バイエル薬品)(むつ市)	脳卒中 update～救急治療から予防まで～	目時 典文
32	平成 30 年 3 月 2 日	リハビリテーション科研修会(三戸中央病院)(三戸郡三戸町)	県内における高次脳機能障害者に対する支援の現状	土岐 敏子

33	平成 30 年 3 月 10 日	青森県老人保健施設協会県 南支部 看護・介護分科会 (八戸市)	老健スタッフが知っておきたい 脳卒中の知識	岩田 学
----	------------------	---------------------------------------	--------------------------	------

学術報告－論文等

年 月 日		雑誌名	論文題目	著者名 (共著含む)
1	平成 29 年 4 月	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 2017 Vol.26 No.4 (P.772-778)	Impact of Atrial Natriuretic Peptide Value for Predicting Paroxysmal Atrial Fibrillation in Ischemic Stroke Patients	白戸 弘志
2	平成 29 年 5 月 10 日	総合リハビリテーショ Vol.45 No.5 (P.531-534)	特集 在宅生活で使える！ 福祉 用具ガイド 20. 自助具など①片麻 痺	松本 茂男 金谷 圭子 猪股 良之
3	平成 29 年 5 月 12 日	地域ケアリング Vol.19 No.5 (P.102-106)	全身振動刺激を用いた運動機能 向上トレーニング～基礎研究から 臨床応用へ～	藤田 俊文 岩田 学
4	平成 29 年 6 月	Geriatric Medicine Vol.55 No.6 (P.687-692)	高齢者におけるリハビリテーション の意義(第 39 回)高齢者によくみら れる疾患・障害とそれに対するリハ ビリテーション慢性疼痛疾患	近藤 和泉 岩田 学
5	平成 29 年 7 月 12 日	地域ケアリング Vol.19 No.8 (P.102-105)	全身振動刺激時が下肢循環動態 に与える影響	藤田 俊文 岩田 学
6	平成 30 年 3 月 31 日	青森県作業療法研究 Vol.26 No.1 (P.29-32)	前開き上着の着衣動作方法を変 更することによって時間短縮効果 が得られた 1 症例	柏崎 勉

委員会報告

医療安全管理委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療安全管理体制を確立し、医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法について、指針を示すことにより、適切な医療安全管理を実践し、患者様へ安全な医療を提供することを目的とする。

2. 構成員

委員長	保嶋 実	(院長)		
副委員長	樋口 三枝子	(看護部長)	藤田 尚子	(医薬品情報室副室長) ※
メンバー	鎌田 孝篤	(副院長・医療安全推進室室長) ※	岩田 学	(副院長)
	工藤 留美子	(看護師長)	成田 京子	(看護師長)
	山田 まり子	(看護師長・医療安全推進室副室長)	金崎 真紀子	(看護師長)
	蒔苗 敦子	(看護師長)	小田桐 千代	(看護師長)
	中田 智子	(看護師長・感染対策室副室長)	盛 亨子	(言語聴覚室長代行)
	三浦 順子	(リハビリテーション部技師長)	鳥谷部 翔	(薬剤師長)
	須藤 真史	(理学療法室室長)	阿保 文子	(臨床検査技師長)
	算用子 暁美	(作業療法室長) ※	小林 正志	(事務局長)
	土岐 敏子	(医療相談室長)	奈良 富士子	(事務部次長)
	川村 隆行	(診療放射線技師長)	蒔苗 寿治	(施設管理課長)
	鳴海 悦子	(管理栄養士長)	立林 修	(庶務課長)
	工藤 雅令	(事務部長)	今 基	(医事課長補佐)
	工藤 博人	(企画運営課長)	佐藤 志乃	(看護主任) ※
	横山 純子	(看護師長・医療器材管理室副室長) ※◆	福井 楽	(庶務係係長) ※

※医療安全推進室（兼務）

◆専従医療安全管理者

構成員の変更

・平成 30 年 1 月 15 日付

医療安全推進室副室長：中田智子へ変更

・平成 30 年 2 月 1 日付

1 病棟看護師長：小田桐千代へ変更

3 病棟看護師長：蒔苗敦子へ変更

4 病棟看護師長：工藤正弘へ変更

5 病棟看護師長：金崎真紀子へ変更

・平成 30 年 3 月 1 日付

医療安全推進室副室長：山田まり子へ変更

2 病棟看護師長：中田智子へ変更

3. 委員会等開催記録

・【医療安全推進室】

毎週金曜日 定例会（LV 判定他） 14：30～15：00

毎月第3木曜日 院内巡視 16：00～16：30

推進室メンバー 6名

・【医療安全管理委員会】

毎月第2水曜日 事例報告・検討 15：30～16：00

各部署リスクマネージャー他 31名

・【転倒・転落ワーキング】

毎月第1火曜日 16：00～16：30

各部署選出のメンバー 27名

業務グループ、教育グループ

・【薬剤ワーキング】

毎月第1木曜日 14：30～15：30

医薬品情報室薬剤師、医療安全管理者、看護部各部署業務委員、事務員 8名

インシデント、アクシデントをもとに薬剤に関連したマニュアル検討

・【薬剤ミーティング】

毎月第3火曜日 16：00～16：30

薬剤室長、薬剤師長、医薬品情報室薬剤師、看護部長、看護師長、看護主任

薬剤情報、取扱い運用、医療事故対策、医師との情報共有

院内巡視

開催日	場所	内容
平成29年4月20日	1病棟	注射薬剤準備の環境 ルール・マニュアル遵守
平成29年5月18日	2病棟	患者誤認対策 ルール・マニュアル遵守
平成29年6月15日	3病棟	配薬業務の確認 患者確認
平成29年7月20日	4病棟	作業環境の整備 患者誤認対策
平成29年8月17日	5病棟	作業環境の整備 患者誤認対策
平成29年9月21日	外来	作業環境の整備 ME 機器安全管理
平成29年10月19日	臨床検査室	作業環境の整備 マニュアルの整備
平成29年11月16日	診療放射線室	機器の安全確認 患者、禁忌確認の徹底
平成29年12月21日	栄養室・厨房	安全感染を配慮した整理、清潔の保持
平成30年1月25日	リハビリ室	患者様の動線の確保や機能性を考慮
平成30年2月22日	薬剤室	効率的な作業環境の整備
平成30年3月23日	事務室	整理・整頓 患者誤認防止

主な研修会

開催日	内容
平成 29 年 4 月 3 日	2017 年度新入職員教育研修「リスクマネジメント」
平成 29 年 4 月 9 日	看護部新人看護職員教育研修「医療安全」
平成 29 年 5 月 30 日	看護部新人看護技術研修「輸液療法の基礎」
平成 29 年 6 月 28 日	看護補助者研修「看護補助業務における医療安全」
平成 29 年 7 月 25 日 ～ 31 日	第 1 回医療安全研修「医療事故における訴訟事例」
平成 29 年 8 月 8 日	看護部新人看護技術研修「薬剤の基本的知識」
平成 29 年 11 月 13 日 ～ 17 日	第 2 回医療安全研修・第 1 回医薬品安全研修 「インシデントレポート記載時の注意点と医薬品安全管理」
平成 29 年 11 月 27 日	看護部新人看護職員教育研修「実践の中での医療安全の取組み」

4. 活動要約

(1) 医療安全研修会 (年 2 回開催)

- 第 1 回医療安全研修会 参加率：87.2%

「医療事故における訴訟事例」

実際の訴訟事例と診療録への記載内容から、どのような判決結果となっているのか、記載時の重要ポイントと合わせて講義内容で、診療録の重要性について理解を深めた。

日々の中で、あまり気にも留めず記載していなかったことが、インシデント・アクシデントとなった際に、記載していなかったことで、「実施していない」「観察していない」という事になり、自分の行った行為を証明するものがない現状となる。しかし、常に訴訟を意識して記録記載する必要はなく、自らが行った事、観察した事を確実に記録に残すという事を習慣づけていくことが大切である。診療録記載の重要性をしっかり受け止め責任のある記録にしていきたい。

- 第 2 回医療安全研修会・医薬品安全管理研修会 参加率 81.6%

「インシデントレポート記載時の注意点」

毎月多くのインシデントレポートが提出されているが、記載方法にばらつきがみられ未記入が目立つ状態で提出されている。概要では、状況を文章で表現する難しさがあり、複数のスタッフが関わっている場合は、文章が複雑すぎたり、逆に単純な事象では省略し分かりにくい内容で提出されている。また、概要に対応と要因が記載され、対応には対策が記載されているため、要因・対策の欄が空欄になっていることが多い。インシデントレポートを面倒と捉えて、できるだけ簡単に記載して早くリスクマネージャーに提出しようという風土を改善して、自らが関わった事象に対し要因を明らかにし、同じことを繰り返さない風土としていく必要がある。

「薬の安全について考える」

医薬品の安全に関する概要、注意点、ヒューマンエラー対策について報告。去年と同じ話だとの感想もあったが、同様のインシデントが院内でも忘れた頃に起こっているため、同じ注意喚起を繰り返すことも大事であるとの内容の意見もあった。次回の研修では、大事なポイントは変わらないとしても、伝え方を工夫したい。

(2) インシデント・アクシデントレポートの収集

インシデント・アクシデント事例を分析し、結果を現場へフィードバックしている。

(3) 院内ラウンド

定期的な院内ラウンドにより安全な作業環境、ルール・マニュアル遵守状況の把握をしている。

平成 29 年度まとめ

今年度は報告件数が増加傾向にあったが、多くの報告から指導内容の不備やマニュアル周知の難しさなど、改善していかなければならない課題を知ることができたと云える。また、医療器材の不適切使用もあり組織として取り組むこととなった。色々な課題を抱え次年度改善へと繋げ、より安全な医療の提供としていく。

院内感染防止対策委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療関連感染防止のために、耐性菌検出状況・抗菌薬の使用状況を把握し院内感染対策の業務が適正に遂行されているかを審議することを目的とする。

2. 構成員

委員長	保嶋 実	(院長)		
メンバー	清野 聡	(医局長)	萩井 譲士	(内科副部長)
	樋口 三枝子	(看護部長)	成田 京子	(看護師長)
	山田 まり子	(看護師長)	工藤 留美子	(看護師長)
	金崎 真紀子	(看護師長)	小田桐 千代	(看護師長)
	蒔苗 敦子	(看護師長)		
	三浦 順子	(リハビリテーション部技師長)	川村 隆行	(診療放射線技師長)
	阿保 文子	(臨床検査技師長)	藤田 佳子	(主任管理栄養士)
	鳥谷部 翔	(薬剤師長)	倉内 寿孝	(主任薬剤師)
	工藤 雅令	(事務部長)	横山 純子	(看護師長・医療器材管理室副室長)
	中田 智子	(看護師長・感染対策室副室長)	毛利 暢子	(看護主任) ※

※院内感染管理者

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 19 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告
2	平成 29 年 5 月 19 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告 平成 29 年度HBワクチンプログラム開始
3	平成 29 年 6 月 21 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告 第 1 回感染防止対策合同カンファレンス報告
4	平成 29 年 7 月 19 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告

5	平成 29 年 8 月 23 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告
6	平成 29 年 9 月 20 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告 第 2 回感染防止対策合同カンファレンス報告
臨時	平成 29 年 9 月 20 日	特殊浴室よりレジオネラ菌検出について報告・対応検討
7	平成 29 年 10 月 18 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告 第 3 回感染防止対策合同カンファレンス (平成 29 年度津軽感染制御フォーラム) 報告 平成 29 年度インフルエンザワクチン接種開始
8	平成 29 年 11 月 15 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告
9	平成 29 年 12 月 20 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告
10	平成 30 年 1 月 24 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告
11	平成 30 年 2 月 21 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告
12	平成 30 年 3 月 22 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告 第 4 回感染防止合同カンファレンス報告

院内感染防止対策研修会

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 6 月 26 ～ 30 日	現場で行う感染防止 「標準予防策について」
2	平成 29 年 10 月 23 ～ 27 日	現場で行う感染防止 「吐物処理」

4. 活動要約

- ・感染情報レポートの評価・検討

院内感染報告患者と報告細菌数を可視化。

細菌報告後は早期に介入を行い結果も含め報告し、注意点などをフィードバックしている。

委員会で検討・注意喚起を行う事で感染防止に繋がっている。

- ・薬剤室より、抗菌薬・消毒剤使用状況報告

抗菌薬使用状況などから、病棟毎の特殊性を把握し感染症に関する治療や抗菌薬使用を可視化する事で、感染状況や治療に繋げる事が出来ている。

今後は、抗菌薬使用状況から適正使用であるかなども介入する指標作成を行う。

- ・I C Tよりラウンド状況報告

院内環境巡視を通し、院内の感染対策実施状況の把握が出来ている。

病院全体で改善が必要な部分について問題提起し改善が図られた。次年度も継続。

- ・院内感染防止対策研修会（年2回）

流行を踏まえて必要な研修を実施。参加者の参加型実践研修を行う事で現場に活用できている。

今後も現場の声を踏まえた研修を行っていく。

栄養管理委員会

1. 活動目的

病院給食が合理的に運営されるために栄養管理委員会を開催し、患者の適正な栄養管理を行い、医療の質の向上を計ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	佐々木 都子（内科部長）	
委 員	鳥谷部 翔（薬剤師長）	阿部 早苗（薬剤師）
	阿保 文子（臨床検査技師長）	樋口 三枝子（看護部長）
	横濱 岳（看護主任）	荒谷 真貴（看護師）
	阿部 理子（看護師）	山口 美樹（看護師）
	盛岡 舞（看護師）	中村 美里（看護師）
	三上 鈴香（看護師）	高阪 理恵（看護師）
	原子 美喜子（看護師）	今井 真子（看護師）
	阿保 智加（看護師）	梶浦 枝里奈（看護師）
	工藤 江理香（看護師）	
	高橋 友紀子（リハ主任／言語聴覚士）	
	佐々木 哲裕（医事係主任）	
	三橋 義宗（管理栄養士・日清医療食品）	
	鳴海 悦子（管理栄養士長）	藤田 佳子（主任管理栄養士）
	田澤 亜巳（管理栄養士）	三浦 みこと（管理栄養士）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 5 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST 報告 アンケート調査結果報告 新年度の栄養管理委員会・NST 委員構成について
2	平成 29 年 5 月 10 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST 報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（春の食事会）
3	平成 29 年 6 月 7 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST 報告 アンケート調査結果報告 春の食事会総評 新規流動食の採用について

4	平成 29 年 7 月 5 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（七夕・土用の丑） アレルギー情報の登録について
5	平成 29 年 8 月 2 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（お盆） ストロウの使用について 栄養室実習受入報告
6	平成 29 年 9 月 6 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（秋の食事会） お茶用ピッチャーの運用について 備蓄粥の提供について 院内約束食事箋の改訂・栄養管理計画書の見直しについて
7	平成 29 年 10 月 4 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 秋の食事会総評 事故食について
8	平成 29 年 11 月 1 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（クリスマス食事会） 院内約束食事箋の改訂報告 補助食品試飲会 勉強会案内

9	平成 29 年 12 月 6 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（クリスマス食事会） 栄養管理計画書改訂報告 勉強会案内
10	平成 30 年 1 月 10 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 クリスマス食事会総評 行事食の対応について（節分） 栄養管理計画書の記載について お茶用ピッチャーの取り扱いについて
11	平成 30 年 2 月 7 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 行事食（バレンタイン・ひな祭り） 経管栄養時の水の注入について
12	平成 30 年 3 月 7 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 電子カルテ給食システムへの入力について 早配膳の受け渡しについて 次年度の栄養管理委員会・N S T の委員構成について 次年度の栄養教室・食事会開催予定報告

4. 活動要約

- ・食事会や行事食は例年通り実施。
- ・前年度と比較し、集団栄養指導は微増（年間 378 件実施）、個人栄養指導は大幅に実施件数を伸ばした（年間 1,464 件実施／入外含む）。引き続き生活習慣の改善に努めていく。
- ・食事アンケート（嗜好調査）では満足・やや満足度が前年度と変わらずほぼ横ばい。（50％程度）引き続き献立や味付け等を工夫し、満足度の向上に繋げていく。

褥瘡対策委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	岩田 学	(副院長)		
副委員長	栗嶋 昭子	(看護師)		
メンバー	樋口 三枝子	(看護部長)	渡部 牧子	(看護師)
	石田 瑞穂	(薬剤師)	三上 知彦	(看護師)
	藤田 佳子	(主任管理栄養士)	工藤 妥恵	(看護師)
	大川 みこと	(管理栄養士)	加藤 早苗	(看護師)
	小野 公久	(作業療法士)	川村 真奈美	(看護師)
	藤田 由香	(理学療法士)	千葉 美由紀	(看護師)
	菊池 真	(企画運営係)	須藤 恵美子	(看護師)
	北川 絵	(医事係)	山浦 美奈子	(看護師)
	伊藤 純子	(看護師)	木村 牧子	(看護師)

3. 委員会開催のまとめ

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 26 日	4 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 3 月分のリスク因子の評価について報告 新年度の目標、新スタッフの自己紹介を実施
2	平成 29 年 5 月 24 日	5 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 4 月分のリスク因子の評価について報告
3	平成 29 年 6 月 28 日	6 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 5 月分のリスク因子の評価について報告
4	平成 29 年 7 月 26 日	7 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 6 月分のリスク因子の評価について報告
5	平成 29 年 8 月 30 日	8 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 7 月分のリスク因子の評価について報告
6	平成 29 年 9 月 27 日	9 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 8 月分のリスク因子の評価について報告

7	平成 29 年 10 月 25 日	10 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 9 月分のリスク因子の評価について報告
8	平成 29 年 11 月 22 日	11 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 10 月分のリスク因子の評価について報告
9	平成 29 年 12 月 27 日	12 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 11 月分のリスク因子の評価について報告
10	平成 30 年 1 月 24 日	1 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 12 月分のリスク因子の評価について報告
11	平成 30 年 2 月 28 日	2 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 1 月分のリスク因子の評価について報告
12	平成 30 年 3 月 28 日	3 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 2 月分のリスク因子の評価について報告 反省点、来年度へ向けての目標について発表報告会を実施

4. 活動要約

- ・ 定例委員会において、各病棟での褥瘡発生状況と治療経過について確認検討した。
 - ・ 定例委員会において、体位交換枕等の使用状況について確認した。
- 1) リハスタッフ、栄養士、薬剤師がその専門性を生かし、予防や栄養補助食品、薬剤に関する情報を積極的に提供していく。
 - 2) 褥瘡に関する学会や研修会への参加を促進する。
 - 3) 定例委員会で勉強会を開催する。
 - 4) 褥瘡に関する病棟スタッフ間での質問や話し合いが活発になるように、褥瘡対策委員が積極的に啓蒙活動を行う。

臨床検査適正化検討委員会

1. 活動目的

本委員会は、当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とする。

2. 構成員

委員長	萩井 譲士（内科副部長）	
メンバー	保嶋 実（院長）	清野 聡（医局長）
	阿保 文子（臨床検査技師長）	倉内 寿孝（主任薬剤師）
	横山 純子（看護師長）	山田 まり子（看護師長）
	毛利 暢子（看護主任）	今 基（医事課長補佐）
	齋藤 理恵（医事係係長）	伊藤 佳織（医事係主任）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 19 日	精度管理実施報告 精度管理結果報告 免疫発光測定装置更新
2	平成 29 年 5 月 24 日	精度管理参加報告 検査機器定期点検報告 異常値検査結果の検討
3	平成 29 年 6 月 21 日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 血液ガス分析装置(システム更新) 異常値検査結果の検討 他
4	平成 29 年 7 月 19 日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 生化学自動分析装置定期点検 血小板凝集能検査の結果入力変更 他
5	平成 29 年 8 月 23 日	精度管理結果報告 生化学自動分析装置修理 凝固試薬の検討
6	平成 29 年 9 月 20 日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 パニック値マニュアル検討 他
7	平成 29 年 10 月 18 日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 凝固検査機器修理 他

8	平成 29 年 11 月 15 日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 凝固試薬変更 血液型判定装置定期点検 機器故障時のバックアップ体制検討
9	平成 29 年 12 月 20 日	精度管理実施報告 血液ガス分析装置（ソフトウェア更新） 生化学自動分析装置定期点検 SMBG 機器保守点検
10	平成 30 年 1 月 24 日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 多項目自動血球分析装置定期点検
11	平成 30 年 2 月 21 日	精度管理結果報告 検体検査システム定期点検
12	平成 30 年 3 月 22 日	精度管理実施報告 凝固測定装置の修理 免疫発光測定装置の試薬不具合

3. 活動要約

- ・ 検査データの精度の向上に努める
- ・ 最新の検査項目の提供
- ・ 検査機器の保守、新機種の検討
- ・ 研究活動
- ・ 治験への参加協力

薬事審議委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医薬品の採用及び削除に関して審議し、医薬品適正使用を目的に活動するものである。

2. 構成員

委員長 清野 聡 (医局長 兼 薬剤室長・医薬品情報室長)
 委員 岩田 学 (副院長)
 内沢 隆充 (脳神経外科部長) 目時 典文 (内科副部長)
 鳥谷部 翔 (薬剤師長)【事務局】 藤田 尚子 (医薬品情報室副室長)
 工藤 雅令 (事務部長) 工藤 博人 (企画運営課長)
 今 基 (医事課長補佐) 齋藤 理恵 (医事係係長)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 10 日	① 平成 29 年度 規定、委員変更の確認 ② 内服抗菌薬の見直し ③ エルネオパ輸液販売中止に伴う代替薬検討 ④ 患者限定採用⇒本採用への検討 ⑤ 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ⑥ 後発医薬品採用割合報告
2	平成 29 年 5 月 8 日	① 患者限定採用⇒本採用への検討 ② 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ③ 後発医薬品採用割合報告
3	平成 29 年 6 月 12 日	① 患者限定採用⇒本採用への検討 ② 後発医薬品採用検討 ③ 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ④ 後発医薬品採用割合報告
4	平成 29 年 7 月 10 日	① ディプリバンの代替薬検討 ② 後発医薬品採用検討 ③ 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ④ 後発医薬品採用割合報告
5	平成 29 年 8 月 21 日	① プリズバインド採用検討 ② 後発医薬品採用検討 ③ 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ④ 後発医薬品採用割合報告

6	平成 29 年 9 月 11 日	① ロナセン採用検討 ② 後発医薬品採用検討 ③ 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ④ 後発医薬品採用割合報告
7	平成 29 年 10 月 16 日	① 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ② 後発医薬品採用割合報告
8	平成 29 年 11 月 13 日	① 後発医薬品採用検討 ② 冠動脈造影用 370 注剤の検討 ③ 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ④ 後発医薬品採用割合報告 ⑤ ハリケーン以外によるファイザー製品供給体制について
9	平成 29 年 12 月 11 日	① OD錠発売開始に伴う採用薬検討 ② 冠動脈造影用 370 注剤の検討 ③ 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ④ 後発医薬品採用割合報告
10	平成 30 年 1 月 22 日	① ケイセントラ静注用採用検討 ② メロペン点滴用バイアル製剤採用検討 ③ 患者限定採用⇒本採用への検討 ④ 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ⑤ 後発医薬品採用割合報告
11	平成 30 年 2 月 19 日	① 医薬品採用申請書の様式変更 ② アゾセミド錠採用規格検討 ③ 患者限定採用⇒本採用への検討 ④ 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ⑤ 後発医薬品採用割合報告
12	平成 30 年 3 月 12 日	① 後発医薬品検討 ② 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ③ 後発医薬品採用割合報告

4. 活動要約

- ・ 事務局である薬剤室薬剤師が各製造販売会社ホームページ、MR 訪問、添付文書やインタビューフォームなどから情報を入手、資料を作成し薬事審議委員会にて審議する。
- ・ 県内医療機関の採用状況及び流通を定期的に聴取し評価する。
- ・ 採用中の先発医薬品の中で①適応に違いがない、②形状や大きさが先発と似ている、③後発医薬品のみの特徴がある、など変更可能と考えられる医薬品を積極的に後発品に切り替える。新規採用の場合でも可能であれば後発医薬品とする。
- ・ 新規採用薬、採用変更及び中止薬を院内に回覧し周知する。
- ・ デッドストック情報を毎月共有し不良在庫にならないようにする。
- ・ 後発医薬品採用割合を、毎月チェックする。
- ・ 問題発生があれば速やかに薬事審議委員会に報告し採用継続の適否を検討する。

診療記録管理委員会

1. 活動目的

診療記録等の診療情報資料を適正かつ効率的に管理し、診療情報管理業務の円滑な運営を図ることを目的とする。

2. 構成員

鎌田 孝篤 (委員長・副院長)	
保嶋 実 (院長)	岩田 学 (副院長)
樋口 三枝子(看護部長)	成田 京子 (看護師長)
山田 まり子(看護師長・医療安全推進室副室長)	工藤 留美子(看護師長)
金崎 真紀子(看護師長)	小田桐 千代(看護師長)
蒔苗 敦子 (看護師長)	横山 純子 (看護師長・医療器材管理室副室長)
中田 智子 (看護師長・感染対策室副室長)	佐藤 志乃 (看護主任)
須藤 真史 (理学療法室長)	算用子 暁美(作業療法室長)
盛 亨子 (言語聴覚室長代行)	三浦 順子 (リハビリテーション部技師長)
鳥谷部 翔 (薬剤師長)	藤田 尚子 (医薬品情報室副室長)
川村 隆行 (診療放射線室技師長)	阿保 文子 (臨床検査室技師長)
土岐 敏子 (医療相談室室長)	鳴海 悦子 (管理栄養士長)
小林 正志 (事務局長)	工藤 雅令 (事務部長・財務経理課長)
奈良 富士子(事務部次長)	工藤 博人 (企画運営課長)
蒔苗 寿治 (施設管理課長)	立林 修 (庶務課長)
佐々木 哲裕(医事係主任・診療記録管理者)	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 12 日	・診療記録管理規程の見直しについて ・委員会での報告事項について
2	平成 29 年 5 月 17 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・病名登録・記載について ・病歴要約の様式変更について ・新規同意書の運用開始（血管内治療・C P X・歯科診療における病理検査）
3	平成 29 年 6 月 14 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・同日再転棟時のカルテ記載について ・病理検査・細胞診検査オーダー入力の一部省略について ・非常勤医師による未承認記録の対応について

4	平成 29 年 7 月 12 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・適時調査報告 ・非常勤医師による未承認記録の対応について
5	平成 29 年 8 月 9 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・カルテ記載における対応について
6	平成 29 年 9 月 13 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・カルテ記載における対応について ・レントゲンフィルムの廃棄について
7	平成 29 年 10 月 11 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・カルテ記載における対応について
8	平成 29 年 11 月 8 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・カルテ記載における対応について
9	平成 29 年 12 月 13 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・カルテ記載における対応について
10	平成 30 年 1 月 17 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・カルテ記載における対応について
11	平成 30 年 2 月 14 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・カルテ記載における対応について
12	平成 30 年 3 月 14 日	・退院時サマリ作成情報報告 ・カルテ開示報告 ・カルテ記載における対応について

4. 活動要約

- ・退院時サマリの作成状況改善に取り組み、完成率が向上した。
- ・内容が不足していると考えられる診療記録について、提案し改善に努めた。

電子保存システム管理委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンターに電子保存システム管理委員会を設け、診療録および電子保存システムの適正な管理、運用を行うことを目的とする。

2. 構成員

委員長	岩田 学 (副院長)	
メンバー	横山 純子 (看護師長)	中田 智子 (看護師長)
	長谷川国俊 (理学療法室副室長)	齋藤 信一 (作業療法室副室長)
	鳥谷部 翔 (薬剤師長)	鳴海 悦子 (管理栄養士長)
	阿保 文子 (臨床検査技師長)	川村 隆行 (診療放射線技師長)
	立林 修 (庶務課長・運用責任者)	盛 啓介 (医療情報係係長・システム管理者)
	田上 憂紀 (医療情報係・システム管理者)	今田 信之 (医療情報係・システム管理者)

3. 委員会開催記録

・ 電子保存システム管理委員会

毎月第1水曜日 14:30～(会議室1)

診療録・電子カルテシステム等の管理、運用等に関する事項の検討

各部署委員 13名

主な活動内容

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 5 日	・ 生理検査オーダ (CPX, ポータブル超音波) 追加の進捗報告 ・ 他院医用画像データ取込運用について ・ 薬剤総合評価調整加算について
2	平成 29 年 5 月 10 日	・ 「システム障害対応規定」の確認 ・ 血管造影オーダ (経皮的脳血栓回収術) 追加 ・ 「急性期脳梗塞に対する緊急脳血管内治療の説明書・同意書」の使用開始 ・ 電子カルテサーバーの一部サーバーがフリーズについて
3	平成 29 年 6 月 14 日	・ 薬剤システムのセンター・つがる間のネットワーク接続 ・ 歯科診療の流れについて
4	平成 29 年 7 月 5 日	・ 「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」第5版改正について ・ UTM (統合脅威管理機能) 機器更新の業者選定 ・ リハシステムが一時的に使用不能になるトラブルについて ・ 電子カルテサーバー定期再起動の運用開始
5	平成 29 年 8 月 2 日	・ 麻薬処方箋の印刷先を一律、薬剤室プリンタへ変更 ・ ウイルス対策ソフトの変更 ・ 富士通不具合対応ツールで、カルテ端末に障害発生について
6	平成 29 年 9 月 16 日	・ 心大血管疾患リハビリテーション料の算定について ・ 時間外注射実施の運用検討 ・ 一時的に当院ホームページが参照できない件について

7	平成 29 年 10 月 4 日	・電子カルテ A3 プリンタのメーカーによる全台交換 ・麻薬注射箋の運用手順変更
8	平成 29 年 11 月 9 日	・シンスライス画像の保管について
9	平成 29 年 12 月 6 日	・栄養システムのリモートメンテナンス開通 ・移動食時の食種変更(疾患別から成分別へ) ・電子カルテシステムのプログラム更新 ・リハシステムのプログラム更新
10	平成 30 年 1 月 10 日	・カルテ停止時の運用、連絡体制について ・電子カルテシステムのプログラム更新後の不具合
11	平成 30 年 2 月 7 日	・神経内科の予約枠変更 ・リハ処方取取込時の注意点
12	平成 30 年 3 月 7 日	・前回入院時の指示簿指示削除 ・画像参照ができない時間帯があった件について

DPCコーディング委員会

1. 活動目的

本委員会は、標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保することを目的とする。

2. 構成

委員長	医療部	鎌田 孝篤	（副院長）
メンバー	医療部	清野 聡	（医局長）
		萩井 譲士	（内科副部長）
		鳥谷部 翔	（薬剤師長）
		樋口 三枝子	（看護部長）
	看護部	山田 まり子	（看護師長）
		金崎 真紀子	（看護師長）
事務局		今 基（医事課長補佐）、齋藤 理恵（医事係係長）	
		佐々木 哲裕（医事係主任／診療記録管理者）	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 24 日	・ 硬膜下血腫などの「外傷」に対する診断群分類について検討 ・ 詳細不明コードの取り扱いについて検討
2	平成 29 年 9 月 14 日	・ D P C 準備病院への参加について検討 ・ Hファイル（看護必要度）における昇圧剤使用に対する解釈について検討

※平成 29 年 9 月 D P C 準備病院届出提出。

4. 活動要約

サマリをはじめとした診療記録及びデータ提出における入力内容の確認。

倫理委員会

1. 活動目的

本委員会は、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医学・医療の倫理的問題について協議するとともに、病院長又は医療部長の諮問を受けて、当院に所属する者が当院において行う医療行為、医学研究及び教育等が医の倫理に関するヘルシンキ宣言等の趣旨に沿って倫理的配慮の下に行われるか審査する。

2. 構成員

委員長 松本 茂男 (副院長)

メンバー 鎌田 孝篤 (副院長)

清野 聡 (医局長)

樋口 三枝子 (看護部長)

【病院外部の学識経験者】

弘前大学大学院保健学研究科看護学領域

教授 長内 智宏

青森県立保健大学健康科学部理学療法学科

准教授 勘林 秀行

元弘前大学医学部保健学科 教授

二唐 東朔

社会保険労務士 石塚 紀子

【事務局】

立林 修 (庶務課長)

3. 活動記録

A 審議あり (変更申請を除く新規申請のみ表示)

承認日	研究名	申請者
平成 29 年 6 月 1 日	脳卒中患者における歩行時の三角巾装着と体幹固定型アームスリング装着の差異に関する研究	弘前大学大学院保健学研究科 准教授 高見 彰淑
平成 29 年 8 月 1 日	エドキサバン口腔内崩壊錠 (OD 錠) 官能評価の臨床研究	内科副部長 萩井 譲士
平成 29 年 9 月 30 日	脳卒中患者における発症前糖尿病の治療状況と患者病識の把握	主任看護師 三上 小夜香
平成 30 年 2 月 9 日	脳卒中患者の塩分摂取を含む生活習慣が QOL に与える影響	弘前大学大学院保健学研究科 教授 長内 智宏
平成 30 年 2 月 9 日	脳梗塞患者の入院時血小板凝集能に影響する因子の分析と塞栓症予防の検討	弘前大学大学院保健学研究科 教授 長内 智宏

B 審議を必要としないもの（委員長決裁）

承認日	研究名	申請者
平成 29 年 6 月 13 日	Fugl-Meyer assessment scale の下肢深部覚 検査 4 項目とパフォーマンステスト FIM 運 動項目との関係	3 病棟 理学療法士 荒谷 光太郎
平成 29 年 12 月 1 日	脳卒中専門施設における心臓リハビリテー ションに対する意識調査	2 病棟 作業療法士 小野 公久
平成 29 年 12 月 28 日	心臓リハビリテーションの立ち上げまでの 取り組みと今後の課題	2 病棟 理学療法士 小山 裕美

4. 活動要約

- ・倫理審査は、紙上にて実施し、各委員が審査の上、必要に応じて申請者へ質問、指摘を行った。
また、不備な点については、修正、追加の上再申請を求めた上で再審査した。
- ・平成 29 年度 新規研究申請件数
審議あり：5 件、審議なし（委員長決裁）：3 件
※申請された研究はすべて承認

衛生委員会

1. 活動目的

衛生委員会の構成、運営、調査審議事項などを定め、衛生管理活動の円滑な推進を図ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	保嶋 実	院長 (衛生管理者)
	高橋 広希	内科部長 (産業医)
	清野 聡	医局長 (衛生管理者)
	松本 茂男	副院長
	工藤 雅令	事務部長
	樋口 三枝子	看護部長
	成田 幸英	看護主任
	毛利 暢子	看護主任
	三浦 順子	リハビリテーション部技師長
	川村 隆行	診療放射線技師長
	算用子 暁美	作業療法室長
	嵯峨 望	庶務係主任
	立林 修	庶務課長 (事務局)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 26 日	感染症罹患状況 労災事故 春の健康診断実施 産業医の巡回 (医学研究室、物品管理室、ごみ収集庫、不潔リネン庫) 他について報告および確認を行った。 平成 29 年度メンタルヘルス研修会の日程、講師について決定した。 人事による委員の変更があり、承認された。
2	平成 29 年 5 月 31 日	感染症罹患状況 労災事故 産業医の巡回 (臨床検査室、生理検査室、放射線室) 他について報告した。
3	平成 29 年 6 月 28 日	感染症罹患状況 労災事故 産業医の巡回 (医局、薬剤室、D I 室) 他について報告した。

4	平成 29 年 7 月 26 日	感染症罹患状況 労災事故 春の健康診断の集計結果 産業医の巡回（栄養室、厨房、事務室、医療相談室）他について報告および検討を行った。
5	平成 29 年 8 月 30 日	感染症罹患状況 労災事故 産業医の巡回（施設管理課、ボイラー室・機械室（中央棟、東棟））他について報告した。 ストレスチェックの外部委託について、資料をもとに検討を行った。 メンタルヘルス研修会の日程、講師について回覧配付を行うこととした。
6	平成 29 年 9 月 27 日	感染症罹患状況 労災事故 秋の職員健診 ストレスチェック実施 産業医の巡回（5 病棟、感染対策室）、長時間労働の状況他について報告および検討を行った。 ストレスチェックの外部委託先変更に伴い、実施規程の見直しについて検討を行った。
7	平成 29 年 10 月 25 日	感染症罹患状況 労災事故 秋の健康診断 産業医の巡回（1 病棟）、長時間労働の状況他について報告した。 ストレスチェックの実施規程と集団分析のグループ分けについて審議し、承認された。
8	平成 29 年 11 月 29 日	感染症罹患状況 労災事故 秋の健康診断 産業医の巡回（4 病棟）長時間労働の状況他について報告した。 ストレスチェックの実施集計が完了し、受検率、高ストレス判定率などについて結果報告した。
9	平成 29 年 12 月 27 日	感染症罹患状況 労災事故 産業医の巡回（3 病棟）、長時間労働の状況他について報告した。 ストレスチェックの実施結果の個人配付が完了し、結果の一次集計について報告した。

10	平成30年 1月31日	感染症罹患状況 労災事故 産業医の巡回（2病棟） 長時間労働の状況他について報告した。 今年度の健康診断結果をまとめ、昨年度との比較結果について資料配付し報告した。 ストレスチェックの集団分析結果について報告した。
11	平成30年 2月28日	感染症罹患状況 労災事故 産業医の巡回（居宅・訪問リハ・地域連携室、1階リハ室、歯科） 長時間労働の状況について報告した。
12	平成30年 3月28日	感染症罹患状況 労災事故 産業医の巡回（外来・内視鏡室）、長時間労働の状況について報告および検討を行った。 次年度委員構成案について検討し、承認された。

4. 活動要約

- ・事業者側と雇用者側からの委員構成で職場環境の点検と対策について検討した。
- ・感染症罹患状況の把握と休養の指導をした。
- ・前年度に引き続き、冬の路面凍結による転倒事故防止対策として、職員通用口付近に融雪および電気マットを敷き、注意喚起の回覧、掲示を実施した。
 労災事故件数 骨折1件、打撲・捻挫2件、針刺し2件、その他2件 計7件
- ・産業医の巡回による職場環境の点検および指摘事項の検討をした。
- ・健康診断で所見のあった職員へのフォローアップをした。
 春の受診者数 175名、指示人数 40名（23%）
 秋の受診者数 407名、指示人数 48名（12%）
- ・メンタルヘルスケアについて年1回の研修会の実施
 講演：「アンガーマネジメントについて」／開催：平成29年9月11日～15日
 講師：弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座 准教授 古郡規雄 先生、参加者329名
- ・ストレスチェックの実施の結果：受検率98.5%、受験者に占める高ストレス判定者の割合15%

部署代表者委員会

1. 活動目的

本委員会は、当財団が少しでも働きやすい環境となるよう、就業規則等の作成・変更にあたっての意見や要望を職員から聴取・集約した上で、財団との交渉や、財団が必要とする意見交換に応じ、法令で定められた書面による財団との協定の締結・変更及び解約を行うことを目的とする。

2. 構成員

委員長	診療部代表	川村 隆行（診療放射線技師長）
メンバー	医局代表	佐々木 都子（内科部長）
	看護部代表	工藤 正弘（看護師長代行）
		三上 小夜香（看護主任）
	リハビリテーション部代表	山田 奈津子（理学療法士）
		齋藤 曜子（作業療法士）
	事務部代表	佐々木 哲裕（医事係主任）

3. 委員会開催記録

回	日付	内 容
1	平成 29 年 5 月 9 日(火)	委員長が職員代表者として適任であるか各部署に確認するための書面を回覧した。
2	平成 29 年 5 月 31 日(水)	5 月 9 日付で回覧した書面を回収・確認した結果、過半数以上の職員から賛同を得られたことを各部署へ文書にて報告した。
3	平成 29 年 6 月 1 日(木)	就業規則等の一部改正について意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒委員会から異議なし。
4	平成 29 年 6 月 29 日(木)	6 月 1 日付での就業規則等の一部改正事項を 6 月 23 日に弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受け、届出した旨を示す書面の写しを各部署に回覧した。
5	平成 29 年 7 月 27 日(木)	就業規則内の年次有給休暇等の申し出及び取扱いの規定を厳守するよう各部署へ文書にて通告した。
6	平成 30 年 3 月 13 日(火)	平成 30 年度の時間外労働及び休日労働に関する労使協定書を財団と締結した。
7	平成 30 年 3 月 14 日(水)	就業規則等の一部改正について意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒委員会から異議なし。
8	平成 30 年 3 月 29 日(木)	3 月 14 日付での就業規則等の一部改正事項を、弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受けた。
9	平成 30 年 3 月 30 日(金)	定期昇給・賞与支給率についての協定書を財団と締結した。

4. 活動要約

男子更衣室と女子更衣室に設置している意見箱に平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月までの期間で職員からの要望が 5 件寄せられた。詳しい内容は公表できないが、職場環境の改善や対人関係の問題、また休暇取得に関する事などであった。具体的な対応として、必要な物品の設置や関係部署長に所属職員の教育徹底を依頼したりと少しでも要望に答えられるよう努力していくので、多くの職員に意見箱を活用して頂きたい。

教育研修委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける職員の学習を奨励し、①職業人として自己を研鑽する姿勢を身につける、②医療人として患者のために奉仕する心を学ぶ、③プロフェッショナルとして個々の知識、スキルを高めるための支援、及び環境調整をするものである。

2. 構成員

委員長	岩田 学	(副院長)		
副委員長	人見 博康	(内科部長)	三浦 順子	(リハビリテーション部技師長)
メンバー	鳥谷部 翔	(薬剤師長)	阿保 文子	(臨床検査技師長)
	川村 隆行	(診療放射線技師長)	鳴海 悦子	(管理栄養士長)
	工藤 留美子	(看護師長)	山田 まり子	(看護師長)
	金崎 真紀子	(看護師長)	中村 学人	(理学療法士)
	増田 大起	(作業療法士)	宇佐美 夏希	(医療相談員)
	奈良 麻里	(医師事務作業補助係)	佐藤 暢子	(財務経理係主任)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 28 日	戦略的人材育成費について メディカルスタッフ勉強会の報告 平成 29 年度の委員会メンバーについて
2	平成 29 年 5 月 26 日	承認伺いの新様式の周知について 施設間勉強会の予定内容報告
3	平成 29 年 6 月 23 日	リハケア勉強会の予定について 職員表彰の選出方法について
4	平成 29 年 7 月 28 日	リハケア勉強会の報告 看護部・脳卒中講座開催について
5	平成 29 年 8 月 18 日	脳卒中学会のコメディカル枠について リハケア研究大会に予演会について 看護部・脳卒中講座開催について リハケア勉強会の予定・内容報告
6	平成 29 年 9 月 22 日	職員表彰の内容・予定報告 看護部・脳卒中講座開催について メディカルスタッフ勉強会の報告
7	平成 29 年 10 月 27 日	職員表彰評価内容と実施について 研修旅費の使用について

8	平成 29 年 11 月 24 日	リハケア勉強会の報告 脳卒中学会のコメディカル枠について 職員表彰経過報告 メディカルスタッフ勉強会の報告 看護部・脳卒中講座開催について
9	平成 29 年 12 月 22 日	研修旅費の来年度予算について 回復期リハ学会予演会について 職員表彰の報告と内容の見直しについて 脳卒中学会コメディカル枠参加者決定の報告
10	平成 30 年 1 月 26 日	来年度の戦略的人材育成費について 看護部、リハ部の教育研修内容についての報告 脳卒中学会予演会の予定について
11	平成 30 年 2 月 23 日	今年度の研修旅費・学術助成費執行状況報告と補正額・来年度予算案について 来年度の戦略的人材育成費について 委員の変更について
12	平成 30 年 3 月 23 日	平成 29 年度助成費執行状況報告 戦略的人材育成費決定報告 新入職員教育研修案について メディカルスタッフ勉強会の予定について 承認伺の様式変更について 学術奨励賞について

4. 活動要約

- ・出張旅費と学術助成の計画と執行状況の確認をした。
- ・黎明郷リハケア勉強会を企画し、無事に実施することができた。
- ・メディカルスタッフ勉強会を企画し、年間を通して行った。
- ・学会予演会を企画・開催した。
- ・職員表彰の評価内容を見直し、観桜会と忘年会で表彰した。

施設運用委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)における施設運用についての意見及び要望について検討し、その適正化を図ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	岩田 学	(副院長)
メンバー	清野 聡	(医局長)
	樋口 三枝子	(看護部長)
	横山 純子	(医療器材管理室副室長)
	三浦 順子	(リハビリテーション部技師長)
	川村 隆行	(診療放射線技師長)
	工藤 雅令	(事務部長)
	蒔苗 寿治	(施設管理課長)

3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 5 日	・副院長室、看護部長室、医局内の移動について ・メモリアルホール側の無断離院防止対策について ・部屋の点検表について ・休日のヘリポートについて
2	平成 29 年 5 月 10 日	・部屋の点検表について審議検討した。 ・メモリアルホール側の無断離院防止対策について ・駐車場の白線について
3	平成 29 年 6 月 14 日	・部屋の点検表について審議検討した。 ・駐車場の白線について
4	平成 29 年 7 月 5 日	・部屋の点検表について審議検討した。
5	平成 29 年 8 月 2 日	・部屋の点検表について審議検討した。
6	平成 29 年 9 月 6 日	・部屋の点検表について審議検討した。 ・治験用無菌ボックスを置く部屋について
7	平成 29 年 10 月 4 日	・今年度 2 回目の点検表について ・治験用無菌ボックスを置く部屋について ・冷房から暖房へ切り替え作業について
8	平成 29 年 11 月 1 日	・部屋の点検表について審議検討した。 ・らせん階段 3 階以降の閉鎖について
9	平成 29 年 12 月 6 日	・部屋の点検表について審議検討した。 ・らせん階段 3 階以降の閉鎖について

10	平成 30 年 1 月 10 日	・看護部長室内のレイアウトについて ・医療器材管理室の新設について
11	平成 30 年 2 月 7 日	・医療器材管理室設置について
12	平成 30 年 3 月 7 日	・新治験中止について ・図書室にホワイトボード設置について ・新年度の委員の構成について

4. 活動要約

- ・各部屋の責任者を選任し年 2 回の点検および改善・対策をした。
- ・休日のヘリポート運用の周知を行った。
- ・副院長室、看護部長室、医局内の移動を行った。
- ・らせん階段 3 階以降の閉鎖を行った。
- ・医療器材管理室を設置した。
- ・看護部長室のレイアウト変更を行った。
- ・図書室にホワイトボードを設置した。

広報委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)の医療情報の広報を的確に推進するため、センターに広報委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2. 構成員

委員長	岩田 学	(副院長)
メンバー	目時 典文	(内科副部長)
	樋口 三枝子	(看護部長)
	三浦 順子	(リハビリテーション部技師長)
	鳥谷部 翔	(薬剤師長)
	立林 修	(庶務課長)

3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 5 月 22 日	・ホームページについて、更新内容、部署別紹介コンテンツ制作の進捗状況について報告があった。 ・年報についての進捗状況報告があった。 ・今年度の市民公開講座について、4 月に実行委員会を立ち上げ、準備中との報告があった。開催予定日は 10 月 1 日（日）
2	平成 29 年 7 月 24 日	・ホームページについて、更新内容、部署別紹介コンテンツ制作の進捗状況について報告があった。 ・年報についての進捗状況報告があった。 ・脳卒中市民公開講座の進捗状況報告があった。
3	平成 29 年 9 月 25 日	・ホームページについて、更新内容、部署別紹介コンテンツ制作の進捗状況について報告があった。 ・年報についての進捗状況報告があった。 ・脳卒中市民公開講座の開催結果について報告があった。
4	平成 29 年 11 月 27 日	・ホームページについて、更新内容、部署別紹介コンテンツ制作の進捗状況について報告があった。 ・その他ホームページ更新の方針について検討した。 ・年報についての進捗状況報告があった。 ・脳卒中市民公開講座の開催結果および次年度開催について報告があった。
5	平成 30 年 1 月 22 日	・ホームページについて、更新内容、部署別紹介コンテンツ制作の進捗状況について報告があった。 ・その他ホームページ更新の方針について検討した。 ・年報の校正が完了し、1 月中公開予定とした。

6	平成 30 年 3 月 27 日	・ホームページについて、更新内容、部署別紹介コンテンツ制作の進捗状況について報告があった。 ・年報第 4 号の公開が完了し、次年度分の作成に向けて準備することとした。 ・脳卒中市民公開講座の次年度開催について報告があった。
---	------------------	---

4. 活動要約

- ・ ホームページの充実、年報の作成、脳卒中市民公開講座の継続開催を軸に審議検討した。
- ・ ホームページは、昨年度に引き続き、各コンテンツの定期的な更新を行い、
- ・ 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第 4 号（H28 年度）が完成し、ホームページ上で公開。
- ・ 脳卒中市民公開講座 2017 を開催した。

平成 29 年 10 月 1 日（日） 弘前市民文化交流館大ホール（ヒロロ 4F） 参加者 91 名

患者サービス委員会

1. 活動目的

本委員会は、各部門が連携協調を図り、業務の円滑な処理および効率性を確保することにより、病院を利用する患者および患者の家族等（以下患者等）へのサービス向上に資することを目的とする。

2. 構成員

医局・ 中央診療室	医局 医療器材管理室 診療放射線室 栄養室	松本 茂男（副院長） 横山 純子（医療器材管理室副室長） 関 晃次郎（診療放射線技師） 鳴海 悦子（管理栄養士長）	鎌田 孝篤（副院長）
看護部	1 病棟 2 病棟 3 病棟 4 病棟 5 病棟 外来	佐藤 奈奈（看護主任） 三上 小夜香（看護主任） 工藤 正弘（看護師長） 木村 昌代（看護師） 小田桐 千代（看護師長）※委員長 齋藤 輝之（看護主任） 蒔苗 敦子（看護師長） 成田 京子（看護師長）	田中 由佳（看護師） 鈴木 三由樹（看護師） 工藤 翔子（看護師） 佐藤 輝美（看護師）
リハ部	理学療法室 作業療法室 言語聴覚室 医療相談室	藤田 由香（リハ士長） 住吉 佳奈子（リハ士長） 福山 美佳（リハ主任） 長尾 さくら（医療相談員）	
事務部	医事課 企画運営課	柳沢 緑（医事係） 田中 結菜（企画運営係）	葛西 志保（医師事務作業補助係）

3. 活動要約

・患者サービス委員会

毎月第3木曜日 15:30～16:00

・活動内容

職員の患者等への対応サービスの向上に関すること
 患者等の院内活動にかかるサービス向上に関すること
 患者等からの苦情・意見の収集および対応に関すること
 ボランティアの受け入れおよび活動内容に関すること
 その他の医療サービスに関すること

4. 主なイベント

開催日	内容
平成 29 年 7 月 4 日	接遇研修 病院事業における接遇研修 「クレームを未然に防ぎ、患者さまの満足をたかめる」 三井住友海上火災保険株式会社 三井住友海上経営サポートセンター 水野 光博 様（社会保険労務士） 72 名参加
平成 29 年 6 月中旬 ～ 7 月 10 日	七夕飾り
平成 29 年 6 月 22 日・29 日	春の清掃活動（ゴミ拾い） 50 名・40 名参加
平成 29 年 9 月 1 日・8 日	秋の清掃活動（ゴミ拾い） 33 名・18 名参加
平成 29 年 11 月中旬 ～ 12 月下旬	クリスマスツリー飾り展示

5. 退院時患者アンケート・患者、家族からのご意見

ご要望の多い順

- ・食事内容（味付け・メニュー）に関する不満
- ・看護師に対する不満（接遇・連携不足）
- ・医師に対する不満（接遇・説明の仕方）
- ・リハスタッフに対する不満（挨拶）
- ・環境に対する不満（湿気・廊下が滑る・表示）
- ・その他：病衣に対する不満、治療スケジュール希望

6. 平成 29 年度まとめ

- ・計画した行事は予定通り実施できた。
- ・主に患者・家族からの苦情、ご意見に対し前向きに検討を進めてきた。
- ・入院患者が最も関心の高い「食事」に関する質の向上（味付け・メニュー）を目指して努力する。
- ・職員の接遇力の向上と連携・協調を深められるための研修会企画をしていく。
- ・環境等に関して、施設管理部門と連携し解決を図る。

レクリエーション委員会

1. 活動目的

本会は、一般財団法人黎明郷 職員間の交流を通じ、労働力の確保・定着・勤労意欲・能率の向上などの効果をもたらすことを目的とし、以下の活動をする。

- ・財団新入職員歓迎会に関する事。（開催日：原則 4 月第 3 金曜日）
- ・財団忘年会に関する事。（開催日：原則 12 月第 2 金曜日）
- ・ボウリング大会に関する事。
- ・その他、レクリエーション活動に関する事。

2. 構成員

委員長	事務部	奈良 富士子（事務部次長）
メンバー	医 局	清野 聡（医局長）
	診療放射線室	川村 隆行（診療放射線技師長）
	栄養室	藤田 佳子（主任管理栄養士）
	外 来	黒瀧 麻実（看護師）
	1 病棟	成田 恵美子（看護補助者）
	2 病棟	赤石 真湖（看護師）
	3 病棟	荒谷 光太郎（理学療法士）
	4 病棟	渡部 清寛（作業療法士）
	5 病棟	芳賀 沙織（准看護師）
	事務部	桑田 武人（財務経理係係長）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 10 日	委員会引き継ぎ、新入職員歓迎観桜会（準備）
2	平成 29 年 5 月 8 日	規約改正（案）、年間スケジュール、新入職員歓迎観桜会（終了報告）
3	平成 29 年 6 月 12 日	規約改正（決定）、委員交代報告、ボウリング大会（準備）
4	平成 29 年 7 月 10 日	ボウリング大会（準備）
5	平成 29 年 8 月 14 日	ボウリング大会（準備）
6	平成 29 年 9 月 11 日	ボウリング大会（終了報告）、レク企画アンケート（準備）
7	平成 29 年 10 月 16 日	レク企画アンケート（準備）、忘年会（準備）
8	平成 29 年 11 月 13 日	レク企画アンケート（結果報告）、忘年会（準備）
9	平成 29 年 12 月 11 日	レク企画アンケート（候補選定）、忘年会（終了報告）
10	平成 30 年 1 月 15 日	レク企画アンケート（財団回答）、委員会開催時間の変更について
11	平成 30 年 2 月 19 日	レク企画アンケート（企画立案）、新入職員歓迎観桜会（準備）、 来年度の委員交代について
12	平成 30 年 3 月 12 日	来年度の委員交代について（決定）、レク企画アンケート（企画立案）、 新入職員歓迎観桜会（準備）

4. 活動要約

内 容	開催日	場 所	参加人数
新入職員歓迎観桜会	平成 29 年 4 月 21 日	ホテルニューキャッスル	285 名
ボウリング大会	平成 29 年 9 月 8 日	アサヒボウル（土手町）	64 名
ボウリング大会懇親会	平成 29 年 9 月 8 日	わいん食堂（百石町）	62 名
忘年会	平成 29 年 12 月 8 日	アートホテル弘前シティ	287 名

※レク企画アンケート結果について

アンケートは全職員対象とし、10月20日に配布、各部署取り纏めの上11月2日を締め切りとして行った。

集計結果として、「全職員対象の日帰りイベント」という意見が多かった。

その結果を踏まえ財団と協議した結果、「ビアガーデン」を企画立案し、来年度の開催に向けて進めて行くこととなった。

NST(Nutrition Support Team)

1. 活動目的

本チームは、一般法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける、入院患者の栄養の向上と維持のために活動するものである。

2. 構成員

リーダー	佐々木 都子（内科部長）				
メンバー	鳥谷部 翔（薬剤師長）	阿部 早苗（薬剤師）	山内 めぐみ（臨床検査技師）		
	木村 俊太（臨床検査技師）	齋藤 真貴（専任看護師）	山口 美樹（看護師）		
	阿部 理子（看護師）	盛岡 舞（看護師）	横濱 岳（看護主任）		
	三上 鈴香（看護師）	中村 美里（看護師）	高阪 理恵（専任看護師）		
	原子美喜子（看護師）	今井 真子（専任看護師）	阿保 智加（看護師）		
	梶原江 里奈（看護師）	原子 由（理学療法士）	斎藤 信一（リハ主任）		
	宮川 具子（言語聴覚士）	一戸 智沙都（医療相談員）	佐々木 哲裕（医事係主任）		
	角田 七海（医事係）	藤田 佳子（主任管理栄養士）	鳴海 悦子（管理栄養士長）		
	船水 亜巳（管理栄養士）	大川 みこと（管理栄養士）			

3. 活動記録

1 病棟	毎週月曜日	13:00～
2 病棟	毎週金曜日	13:00～
3 病棟	月 1 回第 2 木曜日	16:00～
4 病棟	月 1 回第 2 木曜日	16:00～
5 病棟	月 1 回第 4 木曜日	16:00～

▼NST評価件数

	1 病棟	2 病棟	3 病棟	4 病棟	5 病棟
4 月	18	17	5	3	13
5 月	16	19	10	3	7
6 月	26	31	10	3	7
7 月	15	17	9	7	9
8 月	12	9	11	4	6
9 月	21	15	8	4	2
10 月	23	20	7	3	7
11 月	21	27	8	3	9
12 月	25	27	10	6	10
1 月	21	25	9	5	7
2 月	20	19	10	7	6
3 月	26	41	8	7	5
合計	244 件	267 件	105 件	55 件	88 件

4. 活動要約

- ・NSTによる加算算定は実施していないが、食事不振、栄養不良者、経鼻経管栄養対象者に関しての評価は継続して実施した。
- ・一般病棟でのNST対象者については、回復期病棟への転棟後も評価しているが、一般病棟では問題なかったが、回復期病棟転棟後に食欲不振になった患者の抽出なども継続して行われた。

- ・NST勉強会

「消化態栄養剤」11月27日

ICT(Infection Control Team)

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける感染管理を担当する専門職によるグループで、院内ラウンドなどの活動を通して院内感染防止を目的として活動するものである。

2. 構成員

リーダー	清野 聡 (医局長)	サブリーダー	萩井 譲士 (内科副部長)
メンバー	中田 智子 (看護師長)	毛利 暢子 (看護主任)	
	阿保 文子 (臨床検査技師長)	倉内 寿孝 (主任薬剤師)	花田 和大 (薬剤師)
リンクスタッフ	工藤 里美 (看護師)	松川 千尋 (看護主任)	藤田 絵梨果 (看護師)
	工藤 晃 (看護主任)	三上 夏美 (看護師)	下山 小百合 (看護師)
	成田 幸英 (看護主任)	棟方 直子 (看護師)	川村 紘子 (看護師)
	小林 学人 (准看護師)	長内 恵 (看護師)	藤田真紀子 (看護師)
	永澤 麻衣子 (看護師)	工藤 くみ (看護主任)	渋谷 知樹 (看護師)
	成田 華帆 (看護師)	田中 泉美 (看護師)	川村 隆行 (診療放射線技師長)
	花田 和大 (薬剤師)	木村 俊太 (臨床検査技師)	長谷川 国俊 (リハ士長)
	中澤 幸恵 (作業療法士)	今 基 (医事課長補佐)	伊藤 佳織 (医事係主任)

3. ICT会議開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 4 日	平成 28 ICT活動の振り返り 平成 29 年度 ICT活動計画 平成 29 年度 ICTリンクスタッフ活動について 検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
2	平成 29 年 4 月 11 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
3	平成 29 年 4 月 18 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
4	平成 29 年 4 月 25 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
5	平成 29 年 5 月 9 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価

6	平成 29 年 5 月 16 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 手指消毒剤使用量調査について
7	平成 29 年 5 月 23 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
8	平成 29 年 6 月 6 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
9	平成 29 年 6 月 13 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
10	平成 29 年 6 月 20 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
11	平成 29 年 6 月 27 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
12	平成 29 年 7 月 4 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
13	平成 29 年 7 月 11 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
14	平成 29 年 7 月 18 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
15	平成 29 年 7 月 25 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
16	平成 29 年 8 月 1 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
17	平成 29 年 8 月 8 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
18	平成 29 年 8 月 22 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価

19	平成 29 年 9 月 5 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
20	平成 29 年 9 月 12 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
21	平成 29 年 9 月 25 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
22	平成 29 年 10 月 3 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
23	平成 29 年 10 月 10 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
24	平成 29 年 10 月 17 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
25	平成 29 年 10 月 24 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
26	平成 29 年 10 月 31 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
27	平成 29 年 11 月 7 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
28	平成 29 年 11 月 14 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
29	平成 29 年 11 月 21 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
30	平成 29 年 11 月 28 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
31	平成 29 年 12 月 5 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価

32	平成 29 年 12 月 12 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
33	平成 29 年 12 月 19 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
34	平成 29 年 12 月 26 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
35	平成 30 年 1 月 9 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
36	平成 30 年 1 月 16 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
37	平成 30 年 1 月 23 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
38	平成 30 年 2 月 1 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
39	平成 30 年 2 月 13 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
40	平成 30 年 2 月 20 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
41	平成 30 年 2 月 27 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
42	平成 30 年 3 月 13 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
43	平成 30 年 3 月 20 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
臨時 1	平成 29 年 9 月 20 日	レジオネラ検出に伴う対応について
臨時 2	平成 29 年 9 月 21 日	レジオネラ検出に伴う感染対策の実施状況確認 弘前保健所立ち入り調査（中央棟 4 階特殊浴室）

臨時 3	平成 30 年 1 月 4 日	家族インフルエンザ罹患による COPD 患者への予防内服事例 について
---------	-----------------	--

4. 活動要約

- ・院内巡視（I C T ラウンド）を実施・評価し感染対策委員会にて提言
1 年を通して、評価項目の改善点なども多く抽出された。
I C T リンクスタッフのレベルが向上してきている。
- ・院内感染対策マニュアルの見直し
平成 2 7 度を実施しているが、電子カルテ変更や運用変更などに伴い改訂必要箇所がある。
平成 3 0 年度の全面改定に向け各部門に協力を依頼し、全面的な見直しと改訂を行っていく。
- ・手指消毒について
手指消毒薬個人携帯開始に伴い、使用量確認も実施。
個人・病棟における使用量の変化を可視化する事で感染予防につながっている。
- ・潤滑剤の変更
薬剤清潔使用に対する薬剤変更を実施。

DST(Diabetic Support Team)

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける糖尿病患者の合併症の発症・進行が抑制されるよう集学的な治療を行い、症状や生活の質が改善されるように指導や支援を行うことを目的とする。

2. 構成

指導医	医局	佐々木 都子（内科部長）
GM	薬剤室	鳥谷部 翔（薬剤師長）
リーダー	看護部	佐藤 志乃（看護主任）
メンバー	薬剤室	高瀬 公子
		阿部 早苗
	栄養室	鳴海 悦子（管理栄養士長）
		田澤 亜巳
		三浦 みこと
	看護部	三上 小夜香（看護主任）
		工藤 くみ（看護主任）
		伊藤 純子（看護主任代行）
		工藤 里美
		赤石 真湖
		加藤 早苗
		田川 早苗
		板垣 充子
		今井 真子
		工藤 梓
	歯科診療室	小山内 瞳
	医学研究室	外崎 春香
事務局	事務局	佐々木 哲裕（医事係主任）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 10 日	・糖尿病教室の実施検討について ・看護部における糖尿病指導の取り組みについて
2	平成 29 年 5 月 15 日	・糖尿病教室について ・看護部における糖尿病指導の取り組みについて ・学会参加について（発表内容報告）
3	平成 29 年 6 月 12 日	・糖尿病教室について ・看護部における糖尿病指導の取り組みについて ・糖尿病患者を対象とした院内アンケートについて

4	平成 29 年 7 月 10 日	・糖尿病教室について ・糖尿病患者を対象とした院内アンケートについて ・研修会参加について（発表内容報告）
5	平成 29 年 8 月 21 日	・糖尿病教室について ・インスリン指導パンフレットの作成について ・インスリン施注部位の検討
6	平成 29 年 9 月 11 日	・糖尿病教室について ・インスリン指導パンフレットの作成について ・インスリン施注部位の検討
7	平成 29 年 10 月 16 日	・糖尿病教室について ・インスリンのリスクマネジメントについて
8	平成 29 年 11 月 13 日	・糖尿病患者を対象とした院内アンケートについて
9	平成 29 年 12 月 11 日	・糖尿病教室について ・糖尿病指導における資材の使用について ・糖尿病患者を対象とした院内アンケートについて
10	平成 30 年 1 月 15 日	・糖尿病教室について ・糖尿病患者を対象とした院内アンケートについて
11	平成 30 年 2 月 19 日	・糖尿病教室について ・インスリン懸濁製剤に関するスタッフの認識について ・指導管理料算定について
12	平成 30 年 3 月 12 日	・糖尿病教室について ・糖尿病治療注射薬に関する新人スタッフへの教育について ・看護スタッフを対象とした糖尿病指導に関するアンケートについて

4. 活動要約

- ・糖尿病教室の実施（週 1 回）、それに伴う運営・指導方法の検討。
- ・糖尿病患者を対象とした院内アンケートの実施。
- ・インスリン指導パンフレットの整備。
- ・糖尿病治療注射薬に関する新人スタッフ指導の検討。

心臓リハビリテーション ワーキンググループ

1. 活動目的

本ワーキンググループは、心大血管疾患リハビリテーションを適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とする。

2. 構成

高橋 広希 (内科部長 ・ 心臓リハビリテーション指導士)
 小野 公久 (作業療法士・心臓リハビリテーション指導士)
 小山 裕美 (理学療法士・心臓リハビリテーション指導士)
 佐藤 勇季 (理学療法士・心臓リハビリテーション指導士)
 鳥谷部 翔 (薬剤師長)
 横濱 岳 (看護主任)
 阿保 文子 (臨床検査技師長)
 鳴海 悦子 (管理栄養士長)
 工藤 博人 (企画運営課長)

3. ワーキング開催記録

【心臓リハビリテーションワーキング】

毎月第2金曜日 15:00～16:00

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 13 日	CPX 運用方法の確認及び検討
2	平成 29 年 4 月 27 日	緊急時対応時の運用・マニュアル・備品検討
3	平成 29 年 5 月 17 日	入院患者様に実際に訓練介入しての問題点の検討
4	平成 29 年 6 月 8 日	心電図ノイズ対策 朝の回診実施
5	平成 29 年 6 月 19 日	訓練時間の固定 血圧測定機器の不具合の対応
6	平成 29 年 6 月 30 日	担当医師・スタッフ不在時の対応・方法検討 施設基準取得に向けての検討
7	平成 29 年 7 月 21 日	心臓リハビリ用実施計画書の検討
8	平成 29 年 8 月 10 日	CPX の練習 院内啓蒙活動
9	平成 29 年 8 月 25 日	施設基準届出完了 リハシステム・リハ処方の運用について
10	平成 29 年 9 月 8 日	CPX の練習 物品管理方法の検討
11	平成 29 年 9 月 22 日	心臓リハビリ指導医師による勉強会の検討
12	平成 29 年 10 月 13 日	心臓リハビリ開設後の問題点検討

13	平成 29 年 10 月 27 日	心臓リハビリ開設後の問題点検討 適応疾患の確認・検討
14	平成 29 年 11 月 10 日	病棟回診方法の検討 物品購入及び管理方法の検討
15	平成 29 年 11 月 24 日	外来での CPX 訓練の検討 CPX 訓練見学、
16	平成 29 年 12 月 4 日	訓練機器使用についての検討
17	平成 29 年 12 月 8 日	外来での CPX 訓練の検討
18	平成 30 年 1 月 12 日	外来での CPX 訓練の検討 検査・リハ単位取得について
19	平成 30 年 2 月 9 日	外来での CPX 訓練の検討 対応マニュアル作成検討
20	平成 30 年 3 月 9 日	外来での CPX 訓練の検討 CPX 入院の検討 定期カンファレンスの検討

4. 活動要約

- ・心臓リハビリテーションを円滑に行うために、機器の選択やプロトコールの決定を他部門で行っている。
- ・弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座 助教 西崎史恵 医師（心臓リハビリテーション指導士）に非常勤として来ていただき、患者訓練指導に立ち会って指導頂いている。

口腔ケアワーキンググループ

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける入院患者の口腔衛生の向上と維持のために活動するものである。

2. 構成員

リーダー 盛 亨子 (言語聴覚室室長)

サブリーダー 花岡 葉子 (作業療法士) 小山内 瞳 (歯科衛生士)

メンバー 小堀 文美子 (歯科衛生士)

小出 宣子 (看護師) 大湯 彩那 (看護師) 板垣 充子 (看護師)

木村 ゆか子 (看護師) 相馬 晴美 (看護師) 小林 学人 (看護師)

神 麻里子 (准看護師) 石岡 明美 (看護師) 成田 雅子 (看護師)

工藤 瑞葵 (看護師)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 29 年 4 月 5 日	本年度活動計画の検討
2	平成 29 年 5 月 10 日	口腔ケア学会報告
3	平成 29 年 6 月 7 日	歯科衛生士の電子カルテ入力の見直しについて
4	平成 29 年 7 月 5 日	歯科衛生士の電子カルテ入力の見直しについて 歯科衛生士のラウンド指導について
5	平成 29 年 8 月 2 日	中央棟ラウンドとその評価 歯科衛生士の電子カルテ入力の見直し
6	平成 29 年 9 月 6 日	東棟ラウンドとその評価 歯科衛生士の電子カルテ入力の見直し
7	平成 29 年 10 月 4 日	アセスメントシート運用の確認
8	平成 29 年 11 月 1 日	アセスメントシート運用について
9	平成 29 年 12 月 6 日	アセスメントシートの各病棟の状況報告
10	平成 30 年 1 月 10 日	アセスメントシートの各病棟の状況報告
11	平成 30 年 2 月 7 日	今後のアセスメントシート運用の見直し
12	平成 30 年 3 月 7 日	今後のアセスメントシート運用の見直し 次年度の活動検討

4. 活動要約

- ・ 歯科衛生士に電子カルテ入力の実行権限が与えられるよう働きかけ、それを実行し歯科衛生士のラウンド指導の負担軽減を図った。
- ・ 病棟のラウンドを実施し、歯ブラシの使用環境などを確認した。
- ・ アセスメントシートについて、運用の簡素化を図るとともに、チェック漏れなどがないように看護スタッフへの周知を行った。

編 集 後 記

年度末の慌ただしい中、「弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第 5 号」（平成 29 年度）が完成・発刊の運びとなりました。

日頃、日々の臨床に追われていると、その日暮らしになりがちですが、年報作成に当たり私にとっても 1 年を見直してみるいい機会となりました。

平成 29 年度も、地域からの期待に応え、信頼を得られるよう、450 人の職員がそれぞれの職種の専門を生かし努力をしてきましたが、実に 2000 人を超える新患患者さんを受け入れ、9 割以上の病床可動を維持し、専門的な医療やケアを提供し、8 割の方を在宅復帰へ導けたことを数字をもって実感しました。

また実地臨床のみならず、当センターとして講演会や勉強会も主催し、また各方面からの講師依頼を受け、多くの方への脳卒中、リハビリテーションの啓発を行い、さらに学会、研究会へも多くの職員が演者として赴き、情報発信を行ってきたことも、再認識させられました。

さらに、時代にあった緻密さで、患者さんへ安全安心を提供できるように病院機能を向上させるため、多くの委員会やチームが活躍していることも実感させられました。

私は今回より編集委員長として年報と関わることとなりましたが、職員一人一人の頑張りを拾い上げ、これからも病院の実績を形として残していけたらと思います

最後に、多くの兼務のなか、身を削って、記事を作成していただいた職員、データ収集や記事集めに奔走していただいた編集委員へ感謝します。

平成 31 年 3 月 21 日

広報委員会 委員長 目時 典文

【編 集】弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 広報委員会

委員長 目 時 典 文（内科部長）

委 員 樋 口 三枝子（看護部長）

算用子 暁 美（リハビリテーション部技師長）

鳥谷部 翔（薬剤師長）

立 林 修（庶務課長）

